

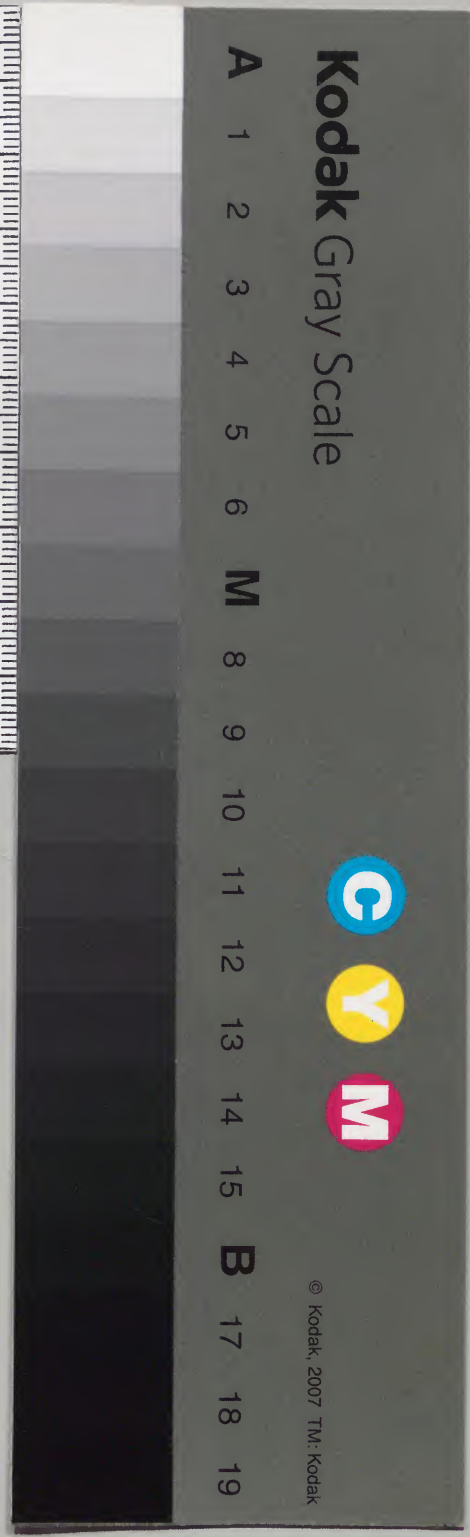
古事記傳

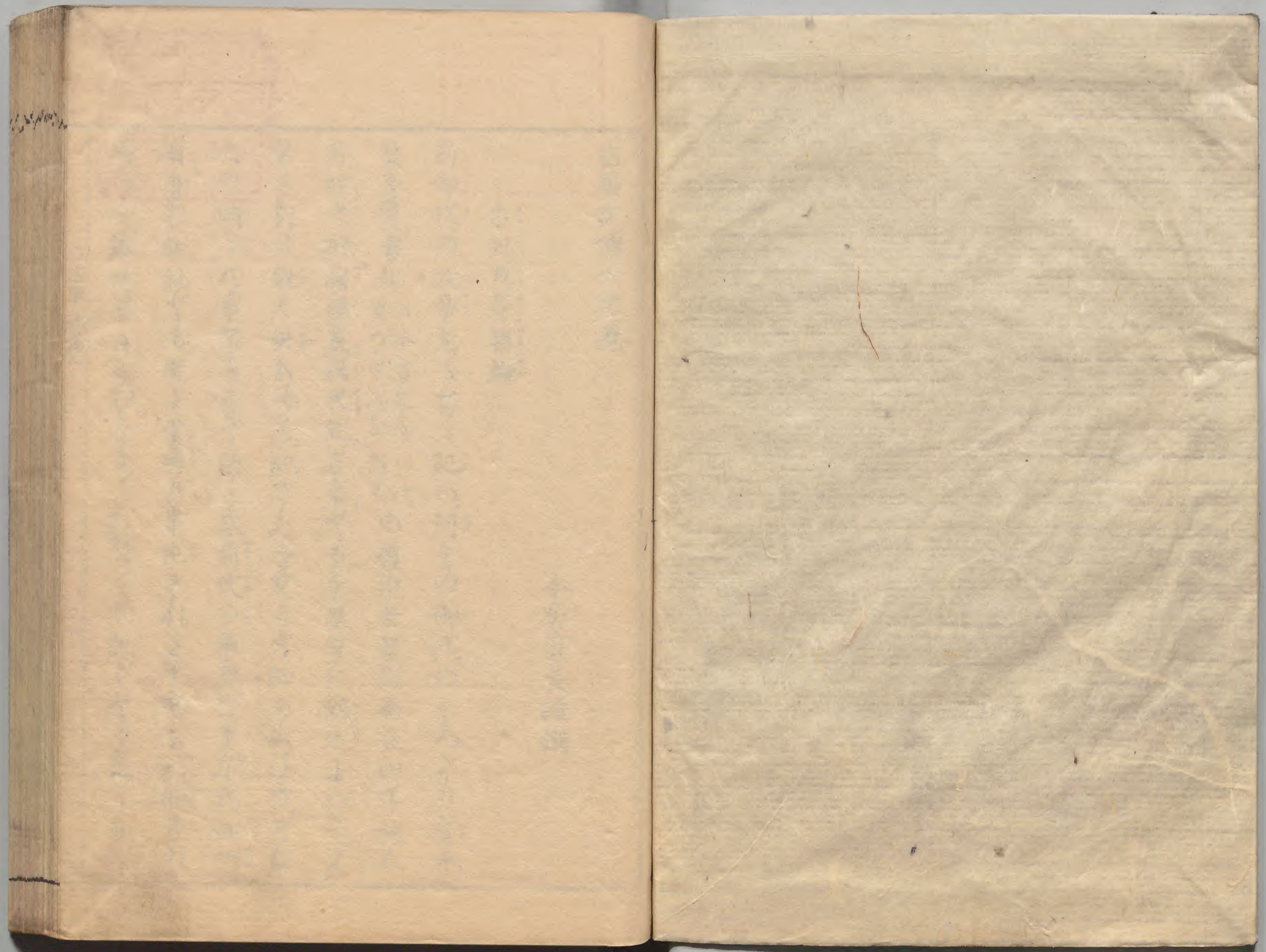
部 史 金
三
五

和書門類			
四二五二〇號	三一函	二架	二八冊

內閣文庫			
和書類	四二五二〇號	四八冊	二七〇函

內閣文庫	
番號	和 42520
冊數	48 (4)
函號	270 16





古事記傳一之卷

古記典等總論

本居宣長謹撰

前御代の故事志るせる記ハ何れの御代の了りより有る

然るを書紀日本書紀をいふの履中天皇御卷ニ四年秋八

月始之於諸國置國史記言事有るを思ふハ朝廷よハ是よ

記さるる既ハ史ありて記さるるを也知らぬやそは

その時サキツミヨ此事やもろそ何れも前代の事やまがへ如何

有るも知ラ秘シ也も既ソノトキ當時乃事記されしやハ往昔の

事コトと語傳コトさるるもまよくめむるも記さるるも



○古事記傳一

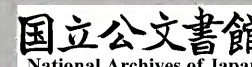
○一

き物かれば其比ソノコロよめぞ有リる也をむかくて書紀修撰ツクラし免
給ひし頃コロの古記フルキフミよりも多く有リる也を見えり。彼神代卷カミヤマキより一
ふが多きをヲ小治田宮コハタノミヤの御宇ミコトノサトの天皇の御世ミコトノサト二十八年ニヤチハチトシの聖
徳太子命トクノミコノミコト蘇我馬子スヘミコノミコト大臣オホオミの共ニ天皇記スメラギノミコトノニタ及國記クニノフミ臣連伴造オミムラシトモノミヤツクシ國
造ミヤツクモ八十部ヤソトモノラニタ并公民等オホミタカラドモノフ本記ミを録ルし給ふ也書紀シキの所トコロ是レぞ
其事の物モノも見えり始メより有リる。又飛鳥浄御原宮アスカノキヨミハラノミヤの御
宇ミコトノサトの天皇の御代十年カハシノミコトノサトの川カハシ皇子等ミコナド十二人オホミコトの詔ミコトノサトおめせ
帝紀スメラギノミコトノニタ及上古諸事カムツヨノモロクノコトモを記定ミゼシラサし免給ふ也ミゼシラサ然シ也ヤも此コノ二ツの
記シの共ニ世ヨの傳ワはりハるニ以テ平城宮御宇ナラシメニヤマシタシロシ天津御代アサヒノミコトノサト豊國
成姫天皇御代オホミコト和銅四年九月十八日オホノアソノミヤスニロ太朝臣安万侶オホミコトの詔オホミコト

おめせしその古事記ツクラを撰録ツクラし免給ふ同五年オホミコトの云々正
月二十八日ツキニヤチハチノヒの御宇ミコトノサト其功終ヲハて貢進タテニツし免給ふ也序オビも見えり
續紀ツグキの此コノ然シ也ヤの今イマの傳ワりハるニ古記の中コノの此コノ記シぞ最古モトモフル
ありとある。さて書紀シキの同宮御宇ニオホミコトノサト高瑞淨足姫タカシメノヨシツメノヒメ天皇御世ミコトノサト養老
四年オホミコトノサトノヨシの御宇ミコトノサト續紀ツグキの記シの所トコロは彼カレの此コノ記シは八年
の御宇ミコトノサトの成ナリりハるニさて此コノ記シの字モジの文アヤをもおぼろ
びてシまはらシ古語フルコトをむねてシ古コノの實ニコトれありシるニを失ウシは
はシるニ勤ツトメしルるニ序オビも見え又今次ツギの云々如シ然シるニは
彼書紀カミヤマキいでシるニより世人タラシのあリるニ彼カレをのみ尊タフみ用ヨひ
て此記コノシキの名ナをシるニ知ラぬニ多クし其所以ユエのいハるニありシるニ

漢籍の学問ニナビは、何事も彼國のさるをのみ、
人毎ようやみ好むコトに、書紀の、そは漢國乃國史や云、
ふみのさるふ似と、越よる、びて、此記の、は、か、あ、る、を、
見て、正ナし、記國史の體サマは、あ、ら、び、な、げ、云、て、取、ら、な、り、ぬ、る、
ものぞ、或人、かく云を、あ、し、み、て、問、ふ、く、此記、り、で、ま、く、
い、く、ば、も、あ、ら、び、な、げ、云、又、書紀を、撰ヒキ、し、免、賜、す、る、に、此記、は、
誤、ら、る、が、故、な、ら、ず、や、い、已、答、も、く、然、る、に、何、ら、ど、此記、あ、
ふ、ら、ず、更、に、書紀を、撰、し、免、賜、す、る、に、その、あ、み、公、も、漢、
学問を、盛、な、好、ま、せ、ぬ、ふ、を、り、あ、ら、び、し、ら、ば、此記の、あ、
ま、り、ぬ、ぐ、あ、り、ぬ、飭、な、く、て、あ、の、漢の國史や、も、ふ、ら、ぬ、れ、

ば、見、た、て、わ、く、浅、く、や、聞、ゆ、る、を、不、足、お、も、は、し、て、更、に、廣、く、
事、や、も、を、考、す、加、ふ、年、紀、を、立、た、せ、し、は、漢、免、し、ら、記、語、や、
そ、か、ざ、り、添、あ、げ、し、て、漢、文、章、を、な、し、て、か、こ、の、お、似、と、
は、國、史、や、立、む、し、免、し、ら、撰、し、免、賜、す、り、を、む、い、で、其、由、を、委、
曲、い、ら、む、ふ、い、先、あ、の、川、島、皇、子、等、お、仰、せ、て、帝、紀、等、を、撰、
し、免、給、ひ、し、あ、や、上、い、す、る、あ、ら、び、く、し、て、其、後、又、和、銅、七、年、
み、も、紀、朝、臣、清、人、三、宅、臣、藤、麻、呂、お、詔、た、ふ、せ、て、國、史、を、撰、し、
免、賜、ひ、し、ら、續、紀、は、見、ゆ、此、二、度、の、撰、の、中、お、川、島、皇、子、等、
の、い、此、記、の、草、創、や、同、ど、く、淨、御、原、此、大、御、世、な、る、中、お、此、記、
れ、始、り、彼、より、前、な、り、し、ら、後、な、り、し、ら、知、ら、ぬ、を、も、彼、



撰此記のはげ久より前なり。是れ諸家之所齋帝紀及
本辭既違正實多加虚偽也。此序ある内小在て彼撰も正
實なるがひ虚偽をぞ加ふしゆをむもしゆと後あるは
もり失し立し此記の事も彼撰より事足ぬはききと
ふよ運移世異未行其事矣。序あるを思ふは此や彼
は其趣別なるこゆ聞えしゆその別あるを知らぬは彼撰
へ潤色を加ふて漢の國史に似るを旨也。此は古の正
實のこゑを傳ふむがめぬははし其意序を見えしりか
とて平城乃大御代に至て其大御志を継坐して太朝臣に仰
せしかの裨田阿禮が誦習する故事やもを撰録し久賜
す

はなり。次よかの和銅七年に撰し久賜ひし史は又彼潤色
乃方なるはしはて養老の年又一も舍人御子に仰せし書
紀を撰し久し小抑かこれ如くさしゆたしゆの
潤色乃史二ある宜しからば大御心よかなのぞ有
きかめし。さしゆあむらひ當時はやく廢さしゆおかし
とて世よ傳つる名よめもはしぬなるはし然るは書
紀のさしゆ乃は勝りて宜しき故よ正史や定まりて其後
へ又改免撰ばるる事もなかりしなり。かくてその古事記
は書紀のぞいて後しもなかり廢らしゆり都や見ゆふはか
の二乃史れかざり多き類よあはして古の正實を記

せるがゆゑやうぼしされば書紀を撰ぐべし。此記の誤、
あるが故のいあはれもやうゆり其趣こやあもそのあめを
誤ありやして改め撰ぶれむ。是もかの二の史乃如
くそのかみりやう廢るぼきま。此記のみ。今の世まても
傳りまるとはれし。又或人後世まても傳りまるとはれし
ざるや。此の記りこれこやふりあはれか。かゝるべし宜き
よゆりて傳はれ宜しか。ざるにゆりて傳りざるも
あざるぼし。元て漢も此間も古の書れい。やうし
たも絶えさ。あはれぬも廣く傳りまるとはれし。多きまあら
ふや。疑ふ。答ふも。く大か。いさ。こやあはれ。も。こし

のや。然ら。先彼。二乃史の書紀續紀も其事を記さる。
あや。よ。公の書や。い。も。此の記り。絶。む。
い。志。い。い。む。ち。い。世。間。も。は。り。て。人。も。ち。り。後。
代。も。も。其。名。ば。り。め。ど。も。遺。る。ぼ。き。ま。は。り。ふ。その。名。を。た。
よ。ち。り。既。く。平。城。乃。代。よ。い。知。人。も。ち。り。め。り。や。万。葉。
集。よ。古。の。事。或。證。免。る。註。や。い。も。引。こ。る。を。見。交。然。る。ふ。
此。記。の。潤。色。や。い。あ。り。記。し。て。漢。の。國。史。や。い。の。體。や。
は。い。こ。異。あ。る。物。ち。り。も。誤。多。か。む。り。い。さ。漢。
籍。好。ま。い。世。ふ。り。や。廢。ら。れ。て。や。り。見。る。人。も。有。ま。い。
ま。して。後。代。ま。い。傳。り。ま。い。物。ち。り。ふ。千。年。の。後。ま。い。

も傳りり来たるを思ふべしそのかみ書紀しできてもな
あうけがよ公オホヤケも用ひしれ世人も讀むべし見えてかの
万葉やみも往ヲリクよ引出せるものを也。上、件の趣、以て
ら初ハジメも序の詞やかの二の史撰シケンバハしテ跡アトやを考カウ合カヒせ
て、あくも有アむムや思オモはスしテはシらシをヲ一ヒトしテりリいイるルなり。
又問、彼川嶋皇子等以仰せし撰乃事ハ書紀シキ見え和銅七
年ハ書紀シキの事も續紀シキ載ノりしル也。此古事記を撰
ば束給ひしあやハ見えぬを思ふべし。此記ハ彼史シもの
如き嚴重オホモき公事オホヤケゴトありあしで。ゆゑ内ウチ々々ハ小事コト見え又書
紀シキハ神代卷カミヨや一書ヒトクミやヲ擧アゲらレしル也。數タビある中ハ此
記キを取トルしテりリあハりテもハれバ。此記キハそのあみ如カ是

は記録キロクやも多オホふ有アむム中ナカハ一書ヒトクミや見えぬゆゑさテ書紀シキハ
その記録キロクやも皆撰ツクび取トルして。此も彼も集ツクめて足タラぬニや
なく備ツクへばさテ此記キの比ヒハあハりテ此記キハいハかテ、
其コノ等トシやみニ尚タラシび用ツクふル也。答コタヘ、此記キハかの一書ヒトクミやも
乃中ナカハ一ヒトしテみミな書紀シキ見えぬニ取トルして。あハれバ事備ツクは
し、此の論ロンハ謂イハふニしテ誠マコトニ書紀シキハ事コトを記キすニしテもハ廣ヒロく
はシ其年月日ツキヒトやヲもテ詳コトしテ不足アカマなリ也。史シやハれバ。此
記キの及ツキばハさテもハ多オホきニ。云イハもハさテ然シカハあハれバも
又、此記キの優ユカきニ事コトをいハむニ。先マ上ウ代トハ書籍シヤクや云物クモツモノな
らシて。ゆゑ人ヒトの口クチハ言傳イヒツタふニしテ事コトハ必カナラ書紀シキの文フミ乃如カ

のかみ漢學カクニニナヒのみさうりに行りて天下此御制ミカサメまでもよ
うが漢様カラザキとなり來ぬる世よしあはれはあはれ書典シヤケンの類ヒま
でひさなるふ漢カラさむらゝを悦びて表オモテ立タテられ上代ウツの正シ
實トあるいしを返リて裏ウラとなりて私物シモノの如くぞ有リむ故レ
其撰定シラビの事も續紀ツギキなりめも載られざりけるなるはしは
て後ノチのいよく其心ココロば育ユクて取見ツクミる人も罕シらとなり世
乃識者モシリビトはし長ナガをば正シし國史クニシの體サマはあはれなりてな
がりに思ひや次ツギていやくもく哀カナシしをれ抑皇國ヨシキミクニは古き國
史シのいふ物外ホカは傳ツタはるざれば其體サマや例タトヘは引ヒひ漢カラのな
るをればその體備サマせりやくいふを漢カラのよ似ニするをよろこ

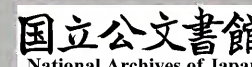
ぶかりそし漢カラ邊ヘなる心ココロなりて彼カは似ニはゆて何事
りのあはれは次ツギて萬マンの事漢カラを主ヌシなりてよき所トコロを定
むる世のなほひしやくをさなれ爰ココは吾岡部大人ウラベノオホタチ賀茂カモ
主ヌシ東國トホノミカドの遠朝廷トホノミカド乃御許ミモトなりて古學フルコトニナヒをいざなり賜タマするに
よめて千年チトセにもおちく餘ホニるまで久ヒサシく心ココロ乃底ソコは染著シメツキ
は漢籍意カラフミゴノロのきくぬまこや字カタ且カッくもさやゆる人ヒトのてきて
此記コノキの尊タラシきこや字カタ世人シヤジンも知初シラシメするは學マナヒの道ミチなり神代カミヤよ
るあはれひもなき彼大人カノオホタチの功イサヲはあはれある宣長ノボナガはし此
御蔭ミカゲは頼ヨリて此意コノイを悟サトり初ハジメて年月トキを経ツるまよくいよく益ニク
益ニクありまみろろ乃穢汚チガハナきこや字カタなり上代ウツの清キヨら

なる正實ニコトをなむ。熟クマらよ見ミ得エてしあれば。此記を以てある
が中ナカに最上カミとる史フ典ミや定サめて書紀をな。是レが次タツに立タツる物
が。かりや。是レも皇大御國スメラミコクニの學問モノミタヒよ心ココロざし。なを徒トモカラのゆえ
此意をな。おひ誤アヤマる。

書紀の論シテひ

今古事記を解トクやして書紀を論カふ。いづくゆえ云ふ。古昔ムカシよりの
世間ヨソナカあしなはれて。只此書紀をのみ。人あやむ。用ヨウひて。世
乃物知モノチ人も。是レよい。こころを。と。と。記キ。言コト痛イタき。ま。で。その
神代卷カムヤマトよの。註釋チュウジヤクや。お。も。多オホか。る。ふ。此記を。い。く。ぶ。な。り。ざ。り
よ思過オモヒスガして。心を用ひむ物や。し。も。思オモひ。と。く。は。是。何故ナニニシテより

や尋ねる。よ。世。人。と。漢籍カンシヤク意イの。み。や。お。み。て。大御國オホミコクの古コ
意イを忘ワスは。て。し。れ。ば。ぞ。か。し。故カレ其漢意カンシヤクの惑マドヒを。さ。や。し。此記
の尊ウツクシぶ。修シユき。由ユを。顯アラハして。皇國ミコクニの學問モノミタヒ乃道ミチある。法ホウを。む。や。な
る。其ソノの先書紀サキカキ乃潤色カガサリあ。ち。き。く。や。な。知チて。其撰述センショクの趣オモムキを。よ
く悟サトら。ざ。れ。ば。漢意カンシヤクの痼疾コウシヤク去サが。く。此病シヤク去サら。ざ。る。此記の
宜ヨシき。く。や。顯アラハを。が。く。此記の宜ヨシき。く。や。成ナリて。古學コガクに
正マサに。記道路キダウの。知チら。る。ま。げ。ま。は。な。り。い。て。其論シヤクの。ま。お。日
本書紀ホンカキや。り。の。題號チヤウガク。し。り。心得ココロエ。こ。の。漢の國史カンノクニシの。漢書カンシヤク晋書シヤク
や。り。の。名ナよ。倣オラヒて。御國ミコクニの號ナを。標アラハら。れ。る。な。し。や。も。漢國
は。代タテる。御國ミコクニの。號ナの。か。り。故ナニニシテよ。其代タテ乃號ナも。て。名ナを。け。ざ。れ。ば。



分^{ワカ}て難^{ガタ}をい^レて了^ル所^ニも皇國^ノハ天地^ノ共遠長^ク天津日嗣^ニ
續坐^{シテ}てか^クつせ賜^フふこ^トし無^キをい^ハバ其^レ分^ケて云^フき小^シ
何^レの^レ氏^ノか^クは^クこ^トし小國^ノ號^ヲをあ^ヅる^ハ並^ニぶ^ルある時^ニ
のわ^ガぢ^ヲも^トふ^ハ是^レハ何^レと對^シひ^テる名^ノぢ^ヲも^ト漢國^ニ對^シる
ら^レれ^ルり^ト見^エて彼^ノ邊^ヲも^ト題^ヲ號^ヲめ^カし^テ後^ノ史^ニ
又^ハ是^レも^トひ^テ名^ヲぢ^ケら^ルも文德^三代^ノ實錄^ニも然^ルを後^ニ
さ^ス此^ノ國^ノ号^ヲを添^ラれ^ルも^トい^ハし心得^レば^カ也^ト然^ルを後^ニ
代^ノ人^乃返^リて是^レを^レけ^キ事^ノ小^シ稱^ス思^フハ^ハい^ハる^ハ已^ダグ
心^ノよ^ハい^ハり^ト何^レの^レ邊^ヲも^ト題^ヲ号^ヲめ^カし^テ或^ハ
此^ノ書^ハ漢國^ヲも見^セ給^フる^ハ多^ク意^ヲも^ト名^ヲも^トか^クハ^ハ然^ル
ら^レれ^ルも^ト外^ノ國^ノ人^ハ見^セむ^コト^ヲも^ト決^テ然^ルハ^ハあ^レば^カ也^ト
然^ルも^ト名^ヲぢ^ケら^ルも^トい^ハし^テ主^ト記^スさ^スる^ハ記^スさ^ス

是^レも體^ノハ^ハ漢^ノの^ニ似^テる^ハも^ト勤^クら^レる^ハ也^ト
小^シ意^トも詞^ヲも^トさ^スる^ハの^ハか^クり^テ多^クて^ハ人^ノ言^語物^ト
乃^チ實^ニまで^ハ上^ニ代^乃違^フる^ハ事^ヲも多^クかり^ケる^ハ也^ト神代卷^ノ
の首^ハ古^ノ天地^未割^テ陰陽^不分^ニ渾沌^如鷄子^云々^ト然^レ後^ニ神聖^ノ生^ル
其中^ニ鳥^ノ也^トい^ハる^ハ是^レハ^ハ漢籍^ノ也^ト也^ト文^ヲを^レ取^リ集^メ
て書^キ加^フる^ハ撰^者ハ私^ニ説^キめ^テ決^メて古^ノ傳^説ノ^ハ
非^ズ次^ニ故^曰開闢^之時^ニ洲壤^浮漂^譬猶^游魚^之浮^水上^也云^々
云^々也^ト是^レも實^ニの上^ニ代^ハ傳^説ノ^ハ有^ケる^ハ故^曰也^トある^ハ小^シ
て^ハそれ^ノ上^ハ新^ニ加^フる^ハ潤^色ノ^ハ文^ヲも^ト知^ル
ら^レれ^ルり^ト若^シ然^ラば^ハ此^ノ二^字ハ何^レノ^レ意^ヲ也^ト初^ノ説^ハ其^ノ趣^ヲ

次をてあごりく疑もなき漢意ありてさうよく皇國乃
上代乃意は非び古をよく考知するも人のたのむる辨
言の法しどもく天地乃初發のありさぬい誠は古傳説の
如くもぞ有むをいっなりばうはさう言痛き異國のこ
かから説を假用ひて先首みも擧られりをも
を見せば故曰を一日やせりもしくれ正しき本なりは殊
よいはまなし其故の異國乃説を主やして御國の古傳を
ば傍よなきしふる記元て漢籍乃説い此天地のぼし然のこ
しをたやれはなり
まもやも何もみなり凡人の已が心もて如此有法き理ぞや
あしあきよ思定然て作るものなり此間の古傳より然
所文誰云出り言やもなきふい上代より詰り傳り來

ちるまくなり此二物をくらべて見るは漢籍の方の理深
く聞えて信ふ然るも有むを思ひ思われ古傳の方の物げな
く浅くや聞ゆるかふ誰も彼おのみ心引きて舍人親王
をばし世これ識者今よまはまで惑ひぬいなきかく人
皆の惑ひ溺ふゆゑの元てかかみれ説やい物ハか
しと記昔の人ぞもの萬乃事を深く考ふ其理を求て我
も人も實又然るや信法さるは造り定然てかこ記
筆もて巧ふりひおきおれはなり然も人の智ハ限の
ありて實の理ハ得測識ふものふあさるは天地の初な
やも如此ある法き理ぞやいうてわしての知法きぞ

する類乃おしほり説の近き事^{イタ}甚く違ふが多かる
物を理をもて見るよの天地乃始も終も^{ハテ}去るもぬるもな
し^カ思ふのい^カお^カきなく人乃智の限有て^サまさ^カの理
の測知^カか^カ知^カる^カを^カえ^カ悟^カら^カぬ^カひ^カが^カ心^カ得^カなり^カ凡て理の^カか
か^カなり^カ思^カり^カる^カは^カ以^カて^カ物^カを^カ信^カる^カの^カむ^カが^カる^カなり^カその
か^カなり^カも^カあ^カは^カわ^カも^カ實^カよ^カ凡^カ人の^カ知^カは^カき^カあ^カは^カ其
説^カを^カな^カせる^カ人^カも^カ凡^カ人^カ信^カふ^カ心^カも^カ凡^カ心^カよ^カあ^カは^カば^カい^カう^カて^カか
は^カす^カる^カよ^カし^カあ^カは^カは^カ辨^カ可^カ知^カむ^カ彼^カ國^カよ^カい^カや^カる^カを^カし
く^カい^カは^カる^カ。聖^カ人^カや^カい^カふ^カ人^カも^カ智^カの^カな^カを^カ限^カあり^カて^カ至^カら^カぬ^カ處
乃^カ多^カかる^カその^カを^カ平^カして^カそ^カの^カより^カ智^カの^カ後^カき^カる^カ人^カぞ^カもの

いひあよする説^カも^カい^カり^カて^カか^カ信^カじ^カく^カあ^カ足^カむ^カ然^カる^カを^カ世
世^カの^カ識^カ者^カみ^カな^カさ^カる^カ臆^カ度^カの^カ説^カよ^カは^カか^カれ^カて^カ是^カを^カえ^カさ^カる^カ
以^カ此^カ潤^カ色^カ乃^カ漢^カ文^カの^カ處^カを^カし^カも^カ道^カの^カ旨^カや^カ心^カ得^カ居^カる^カる^カい^カや
を^カい^カや^カも^カあ^カさ^カま^カし^カま^カれ^カ彼^カ首^カの^カ文^カい^カや^カか^カざ^カり^カあ^カ加^カる^カ
ふ^カ序^カの^カ如^カき^カ物^カや^カ見^カ過^カして^カ有^カは^カき^カなり^カ次^カ又^カ乾^カ道^カ獨^カ化^カ所以^カ
成^カ此^カ純^カ男^カま^カと^カ乾^カ坤^カ之^カ道^カ相^カ参^カ而^カ化^カ所以^カ成^カ此^カ男^カ女^カや^カあ^カる^カ是^カ
ら^カも^カ撰^カ者^カの^カ心^カも^カて^カ新^カよ^カ加^カる^カれ^カる^カは^カ可^カし^カら^カ文^カなり^カ其^カ
故^カの^カま^カ乾^カ坤^カを^カい^カふ^カる^カ皇^カ國^カよ^カな^カき^カる^カを^カて^カその
古^カ言^カな^カげ^カる^カ古^カ傳^カ説^カよ^カ非^カる^カる^カや^カ明^カら^カむ^カし^カ古^カ傳^カを^カ
む^カよ^カい^カふ^カ天地^カ之^カ道^カや^カあ^カる^カ未^カ但^カし^カる^カ天地

みよ書れしるばをれや。此文也。其の後代に至りてかくさぬ
ざるの邪説を招く媒也。なりてまよひて道の所りりれり
と根本みざる有む。さしやあつ陰陽の理なり。ふさや
いや昔より。世人乃心の底に深く染着しる。さしや。誰も
誰も天地乃自然の理なり。何ゆる物も事も。此理をば
なす。さしや。思ふ。さしや。漢籍説に惑する
心なり。漢籍心を清く洗ひ去て。よく思ふ。天地は。天
地男女は。水火は。水火は。水の性質
情状は。あれ。そのみ。神の御所為。然るゆ。名乃
あや。し。奇靈く微妙なる物。み。あ。さ

小人乃よく測知し。然るを漢國人乃癖也
して。己が。心をも。萬の理を強て。考求せ。此
陰陽のい。名を作。設て。天地萬物。此理乃外。如
く説。そのなり。かくの如く。陰陽は。漢人の作出
なり。故り。他國より。其の。無き。彼國乃。私説
乃。佛經論。を見る。世界乃始。又人身。地水火風
の。大なり。其文字。以て説。陰陽五行。の説の
漢語。文章。乃。事。漢。其
理を。い。さ。漢。其
か言。痛く。物。乃。理。を。い。漢。其
ふ。を。以て。陰陽の。漢國。乃。私説。を。さ。し。な
む。か。さ。人。乃。よく。考。求。て。作。出。し。る。十。六
七。の。當。り。る。が。如。く。なる。故。よ。世。の。人。皆。を。信用。て。疑

あるやをいひても其陰陽の又いふなる理よりして陰陽
なるやをいひても其理の知るやあるやの太極無極なる
いふやも何れやもそれなりといふなる理よりして太極無極
なるやをいひても終るその元乃理の知かときふ落れぬ
の誠よの陰陽も太極無極も何乃益もなきいと云ふ説よ
ていふいふ人の智れ測知なき限の内乃小理よと云
ざるや名を設きたるのみよと有ける抑天照大御神の日
神よ坐まして女神月夜見命の月神よ坐まして男神よ坐
まして是を以て陰陽のいふやのまことなり理よりなるや古傳
よ背けるやをさるる法然るを猶彼理よ泥み惑ひて

返して此をさる其理よかなるや強て説曲ふなるやいふ
ふも足ぬるやなりかして又美都波能賣神を罔象女綿
津見を少童やかくさるる類も漢よる類よひて快かぬ
書よぬなりかくて又神武御卷よ至ての天皇の詔やて是
時運屬鴻荒時鍾草昧故蒙以養正治此西偏皇祖皇考乃神
乃聖積慶重暉やあるふがひ意も語をさる上代のさる
よ何れ全潤色のさる撰者の作加るれなる文なり
崇神御卷よ詔曰惟我皇祖諸天皇等光臨宸極者豈為一身
乎云々不亦可乎それも同じ大り御代御代乃詔詞此類
なる上代の卷なる潤色よ加るれなる物や見え

由もなし。然るを天^{ミタテ}と神靈^{ミタテ}あるが如くしひなして人の禍^{ミタテ}
福^{ミタテ}も何^{ミタテ}も世中^{ミタテ}に事^{ミタテ}のみなす。その所^{ミタテ}為^{ミタテ}やけるは。漢國^{ミタテ}の^{ミタテ}や
まて。むぐ^{ミタテ}や^{ミタテ}を^{ミタテ}。続紀^{ミタテ}の宣命^{ミタテ}は。天地^{ミタテ}乃^{ミタテ}心^{ミタテ}や見^{ミタテ}え。万葉
集^{ミタテ}も。奈良^{ミタテ}乃^{ミタテ}て^{ミタテ}あ^{ミタテ}ま^{ミタテ}い^{ミタテ}し^{ミタテ}め^{ミタテ}て^{ミタテ}い^{ミタテ}既^{ミタテ}は^{ミタテ}漢意^{ミタテ}乃^{ミタテ}う^{ミタテ}ち^{ミタテ}り^{ミタテ}て^{ミタテ}古
意^{ミタテ}ふ^{ミタテ}く^{ミタテ}る^{ミタテ}る^{ミタテ}や^{ミタテ}も^{ミタテ}ま^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}や^{ミタテ}り^{ミタテ}外^{ミタテ}國^{ミタテ}は^{ミタテ}萬^{ミタテ}の^{ミタテ}事^{ミタテ}を^{ミタテ}み
な^{ミタテ}天^{ミタテ}の^{ミタテ}御^{ミタテ}所^{ミタテ}為^{ミタテ}なる^{ミタテ}や^{ミタテ}を^{ミタテ}え^{ミタテ}あ^{ミタテ}し^{ミタテ}る^{ミタテ}が^{ミタテ}故^{ミタテ}なり^{ミタテ}。天帝^{ミタテ}或^{ミタテ}は
天^{ミタテ}之^{ミタテ}主^{ミタテ}宰^{ミタテ}なり^{ミタテ}い^{ミタテ}ふ^{ミタテ}形^{ミタテ}る^{ミタテ}は^{ミタテ}神^{ミタテ}を^{ミタテ}指^{ミタテ}し^{ミタテ}似^{ミタテ}し^{ミタテ}る^{ミタテ}れ^{ミタテ}や^{ミタテ}も^{ミタテ}こ^{ミタテ}れ^{ミタテ}を^{ミタテ}
ま^{ミタテ}る^{ミタテ}や^{ミタテ}は^{ミタテ}神^{ミタテ}ある^{ミタテ}や^{ミタテ}を^{ミタテ}知^{ミタテ}て^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}よ^{ミタテ}い^{ミタテ}あ^{ミタテ}し^{ミタテ}る^{ミタテ}假^{ミタテ}乃^{ミタテ}
名^{ミタテ}ふ^{ミタテ}して^{ミタテ}。實^{ミタテ}は^{ミタテ}天^{ミタテ}乃^{ミタテ}理^{ミタテ}も^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}な^{ミタテ}れ^{ミタテ}ば^{ミタテ}。天神^{ミタテ}や^{ミタテ}の^{ミタテ}異^{ミタテ}なり^{ミタテ}。
か^{ミタテ}の^{ミタテ}皇^{ミタテ}天^{ミタテ}や^{ミタテ}ある^{ミタテ}字^{ミタテ}を^{ミタテ}ア^{ミタテ}ム^{ミタテ}ノ^{ミタテ}カ^{ミタテ}ミ^{ミタテ}や^{ミタテ}訓^{ミタテ}る^{ミタテ}は^{ミタテ}。皇^{ミタテ}天^{ミタテ}乃^{ミタテ}て^{ミタテ}。古
意^{ミタテ}より^{ミタテ}なり^{ミタテ}なり^{ミタテ}。天^{ミタテ}神^{ミタテ}や^{ミタテ}ある^{ミタテ}法^{ミタテ}き^{ミタテ}處^{ミタテ}なる^{ミタテ}や^{ミタテ}を^{ミタテ}辨
す^{ミタテ}る^{ミタテ}。あ^{ミタテ}れ^{ミタテ}ば^{ミタテ}。此^{ミタテ}訓^{ミタテ}は^{ミタテ}宜^{ミタテ}し^{ミタテ}。さ^{ミタテ}れ^{ミタテ}ば^{ミタテ}。此^{ミタテ}訓^{ミタテ}は^{ミタテ}よ^{ミタテ}り^{ミタテ}て^{ミタテ}。皇^{ミタテ}天^{ミタテ}即^{ミタテ}天
神^{ミタテ}の^{ミタテ}心^{ミタテ}得^{ミタテ}む^{ミタテ}い^{ミタテ}ふ^{ミタテ}が^{ミタテ}。さ^{ミタテ}れ^{ミタテ}ば^{ミタテ}。元^{ミタテ}て^{ミタテ}書^{ミタテ}紀^{ミタテ}を^{ミタテ}看^{ミタテ}む^{ミタテ}り^{ミタテ}。此^{ミタテ}録^{ミタテ}は^{ミタテ}
此^{ミタテ}差^{ミタテ}を^{ミタテ}よく^{ミタテ}思^{ミタテ}ふ^{ミタテ}法^{ミタテ}き^{ミタテ}物^{ミタテ}なり^{ミタテ}。よく^{ミタテ}せ^{ミタテ}る^{ミタテ}は^{ミタテ}。漢^{ミタテ}意^{ミタテ}は^{ミタテ}奪^{ミタテ}り^{ミタテ}れ^{ミタテ}ぬ^{ミタテ}法
し^{ミタテ}。さ^{ミタテ}る^{ミタテ}ふ^{ミタテ}。漢^{ミタテ}文^{ミタテ}乃^{ミタテ}か^{ミタテ}ぎ^{ミタテ}め^{ミタテ}を^{ミタテ}旨^{ミタテ}や^{ミタテ}せ^{ミタテ}し^{ミタテ}。れ^{ミタテ}なる^{ミタテ}か^{ミタテ}く^{ミタテ}

体^{ミタテ}違^{ミタテ}い^{ミタテ}ある^{ミタテ}形^{ミタテ}り^{ミタテ}。漢^{ミタテ}意^{ミタテ}は^{ミタテ}惑^{ミタテ}す^{ミタテ}る^{ミタテ}。後^{ミタテ}世^{ミタテ}人^{ミタテ}。此^{ミタテ}差^{ミタテ}別^{ミタテ}を^{ミタテ}え^{ミタテ}志^{ミタテ}す^{ミタテ}る^{ミタテ}。
是^{ミタテ}ら^{ミタテ}の^{ミタテ}文^{ミタテ}を^{ミタテ}見^{ミタテ}て^{ミタテ}。返^{ミタテ}て^{ミタテ}天^{ミタテ}神^{ミタテ}や^{ミタテ}申^{ミタテ}は^{ミタテ}い^{ミタテ}。假^{ミタテ}乃^{ミタテ}名^{ミタテ}ふ^{ミタテ}して^{ミタテ}。即^{ミタテ}天
れ^{ミタテ}る^{ミタテ}や^{ミタテ}。心^{ミタテ}得^{ミタテ}え^{ミタテ}れ^{ミタテ}ば^{ミタテ}。こ^{ミタテ}の^{ミタテ}殊^{ミタテ}は^{ミタテ}。學^{ミタテ}問^{ミタテ}乃^{ミタテ}害^{ミタテ}や^{ミタテ}なる^{ミタテ}文^{ミタテ}なり^{ミタテ}。
天^{ミタテ}神^{ミタテ}の^{ミタテ}正^{ミタテ}しく^{ミタテ}人^{ミタテ}なり^{ミタテ}の^{ミタテ}如^{ミタテ}く^{ミタテ}。現^{ミタテ}身^{ミタテ}ま^{ミタテ}ま^{ミタテ}る^{ミタテ}神^{ミタテ}なり^{ミタテ}。漢^{ミタテ}意^{ミタテ}の^{ミタテ}
天^{ミタテ}乃^{ミタテ}如^{ミタテ}く^{ミタテ}空^{ミタテ}しく^{ミタテ}理^{ミタテ}を^{ミタテ}以^{ミタテ}て^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}。假^{ミタテ}名^{ミタテ}よ^{ミタテ}い^{ミタテ}非^{ミタテ}ば^{ミタテ}。天^{ミタテ}神^{ミタテ}や^{ミタテ}申
は^{ミタテ}。御^{ミタテ}稱^{ミタテ}乃^{ミタテ}天^{ミタテ}の^{ミタテ}坐^{ミタテ}ま^{ミタテ}る^{ミタテ}御^{ミタテ}國^{ミタテ}を^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}。綏^{ミタテ}靖^{ミタテ}御^{ミタテ}卷^{ミタテ}は^{ミタテ}。天^{ミタテ}皇^{ミタテ}風
姿^{ミタテ}岐^{ミタテ}嶷^{ミタテ}。少^{ミタテ}有^{ミタテ}雄^{ミタテ}拔^{ミタテ}之^{ミタテ}氣^{ミタテ}。及^{ミタテ}壯^{ミタテ}容^{ミタテ}貌^{ミタテ}魁^{ミタテ}偉^{ミタテ}。武^{ミタテ}藝^{ミタテ}過^{ミタテ}人^{ミタテ}。而^{ミタテ}志^{ミタテ}尚^{ミタテ}沉^{ミタテ}毅^{ミタテ}
や^{ミタテ}い^{ミタテ}ひ^{ミタテ}。崇^{ミタテ}神^{ミタテ}御^{ミタテ}卷^{ミタテ}は^{ミタテ}。天^{ミタテ}皇^{ミタテ}識^{ミタテ}性^{ミタテ}聰^{ミタテ}敏^{ミタテ}。幼^{ミタテ}好^{ミタテ}雄^{ミタテ}畧^{ミタテ}。既^{ミタテ}壯^{ミタテ}寬^{ミタテ}博^{ミタテ}謹^{ミタテ}慎^{ミタテ}
云^{ミタテ}。さ^{ミタテ}る^{ミタテ}や^{ミタテ}い^{ミタテ}る^{ミタテ}。類^{ミタテ}の^{ミタテ}文^{ミタテ}も^{ミタテ}。古^{ミタテ}傳^{ミタテ}の^{ミタテ}有^{ミタテ}し^{ミタテ}る^{ミタテ}。漢^{ミタテ}字^{ミタテ}ふ^{ミタテ}く^{ミタテ}り^{ミタテ}て^{ミタテ}
書^{ミタテ}す^{ミタテ}る^{ミタテ}よ^{ミタテ}い^{ミタテ}あ^{ミタテ}る^{ミタテ}。上^{ミタテ}代^{ミタテ}の^{ミタテ}い^{ミタテ}ら^{ミタテ}。其^{ミタテ}御^{ミタテ}代^{ミタテ}の^{ミタテ}御^{ミタテ}所^{ミタテ}行^{ミタテ}は^{ミタテ}よ
す^{ミタテ}。多^{ミタテ}く^{ミタテ}い^{ミタテ}撰^{ミタテ}者^{ミタテ}れ^{ミタテ}か^{ミタテ}ぎ^{ミタテ}め^{ミタテ}ふ^{ミタテ}加^{ミタテ}す^{ミタテ}ら^{ミタテ}れ^{ミタテ}る^{ミタテ}。物^{ミタテ}や^{ミタテ}見^{ミタテ}ゆ^{ミタテ}。又^{ミタテ}應

神御卷。淡路嶋の事を。峯巖紛錯。陵谷相續。芳草蒼蔚。長瀨潺湲。やうい。雄畧御卷。馬を稱て。漢畧而龍翥。歟聳擢而鴻驚。異體峯生。殊相逸發。やうい。ふがひやうも。潤色過てい。やうい。漢文なり。又神武御卷。弟猾大設。牛酒以勞。餐皇師焉。崇神御卷。蓋命神龜。以極致災之所由也。それの文。かごめよりりて。實を失ひ。い。害やまぬ。皇國は。上代やうい。牛を食する。又ト小龜を用ひ。は。牛酒神龜やうい。書は。撰者乃意。い。漢文の潤色。乃みちれやうい。後人。これを實や思ふ故。學問乃害や。やうい。牛を食ひ。ト小龜を用ひ。外國の俗。ふ。景行御卷。倭建命の。東國言向。又幸行む。は。處。天

皇持斧鉞。以授日本武尊。曰云。い。古。か。時。み。矛。劍。やうい。賜ひ。斧鉞を賜する。事。い。ふ。故。これ。此記。給比。羅木之八尋。矛や。實。を。強て。漢。斧鉞の書。い。語。か。替て。書。い。あ。り。此。類。あり。看。心。い。又。繼。躰。天皇。乃。未。越。前。の。三。國。大。坐。を。臣。連。等。相。議。て。迎。奉。て。天津。日。嗣。所。知。看。い。を。謝。び。賜。する。處。大。男。迹。天皇。西。向。讓。者。三。南。向。讓。者。再。や。あ。る。か。み。か。事。あ。る。は。こ。も。あ。い。此。前。後。の。文。い。次。る。漢

小論する如く、漢籍カラブミのふりをなすひて、其かぎりの文多きを
せむかぎりのれを文乃まゝに訓まむりの字音なむをもま
どまてをばらわらぶみを読ヨムぶくよむばよとぬまれ
ゆも、又をめぐりの訓注を加すて古言を顯アラハされたるこゆも
ある哉思ふべ、然シカしづらるる漢籍の如く讀法きふも非ば、
然らば全ニクく古言よよむむゆゆるよはさくふたの訓か
き處おちく、又其字の意を得て強シヒてよやゆきんの言ハ皇國
の言よかめても、その連接ツギキや意やんかや漢なるこゆ多し、
然シカば全ニクく古言古意よ訓むゆなすべ、さくふ文よ拘カらば、
字よ次ツギづらば、其所のいふてれ意をよく思て、古事記

万葉の語乃格カをよく考すて訓法し、然せむよ、十字二十
字なむをも、みかづく捨ステて讀まど處くぬやも有レ法きを
まするあゆよし、今世人の、おのちうら又今の癖クセ乃ある物
なれば、さめて上代の意言をいさくかを違ヒるべ、おづら
ふさやう明らあきこゆも、え有レか、うあなよわごころあ
む、かよろうらるゝゆり、とは訓得がよ書なめうし、
て今本の訓の、ある法き限リの、古言よ訓する物みして、
るこゆの、多く其言、古き言やも是よぬゆも多し、さねば、
まぢひてよをり、
を漢文のかぎりれ處なるゆ、其文のまゝに、字よ次ツギづめて
訓る故よ、さくふ古意よあレば、て言れおづきば、あなや

もとほり漢籍訓なり。此意を思ひて看法し

舊事紀のいふ書乃論

世ふ舊事本紀の名ぢけし。十卷乃書あり。此の後人の偽
了輯せしる物にして。さういふの聖徳太子命の撰び給し。
真の紀よの非也。序も書紀推古御卷乃事ぬ。然もやも無き
事をもいふ。造りて書はよもあはれ。此記の書紀
のを取合せて集めたり。其の卷を披き一ふみ見せら。
いやくよく知ふ。こやあはれ。疑りむ人もあはれ。神代
乃事記せる所を心やぶ。然て看よ。事毎に此記の文の書
紀の文の書を皆本のまゝに。交りて擧ぐる。故に文躰一

初物なり。比諺よ木ぬ竹を接ア。ゆり云が如し。又此記なる
をも書紀なるをも。あはれ。法取て。一事の重なる。さう有て。
いやくよくみ。ごりあはし。び。な。て。此記の書紀のい。な。法。て。の。文。
れ。さ。あ。も。物。名。の。字。ぢ。や。も。い。う。く。異。な。る。を。雜。り。て。取。り。
ば。その。ま。ら。ぬ。い。やく。よく。分。せ。て。あ。い。な。り。又。往。く。古。語。拾
遺。を。も。取。り。し。是。も。其。文。の。ま。な。れ。ば。よく。分。せ。し。り。
を。以。て。見。せ。ら。大。同。よ。り。後。に。作。せ。る。物。な。り。ま。り。
され。ば。その。中。に。嵯。峨。天。皇。の。云。ら。ゆ。も。見。え。し。れ。か。て。神
武。天。皇。よ。り。以。降。の。御。世。く。く。の。ま。は。れ。書。紀。の。み。を。取。り。事
を。畧。て。か。き。る。是。も。書。紀。の。文。全。く。同。じ。き。ら。れ。あ。い。な。り。
且。歌。の。み。を。畧。も。る。ふ。い。う。な。ら。ば。神。武。御。卷。の。の。み。を

ていふ古事や云るうけばりていや貴し異國を邊ぢひ
思つべ天地乃極み天神御子所^シ知^レ者^ニ食^ス國^ニの外^ニあき
意^ニあふ^レる^レばなり^ニ撰^ル者^ノ意^ハい^ハる^レる^レや^ハま^デを^シ思^ヒて
おの^ノあ^ハり^ハ此^ノ意^ハか^ハ大^ニ御^ノ國^ノの^物學^セむ^ヤも^ガり^ハ何^ノ事^ナ
あ^ハり^ハ常^ニ此^ノろ^ろづ^を忘^ルる^レま^デに^ハもの^ナり^ハ又^ハ卷^ノの^分ち
さ^ハも^ハ漢^ノ籍^ノ乃^ハ例^ニあ^ハり^ハは^ハり^ハび^テ上^ノ卷^中卷^下卷^中卷^下卷^中の^いづ^レも
これ^ハり^ハる^レ也^ナし^ニ又^ハ卷^ノ之^一卷^第一^ノを^ハり^ハい^ハる^レ漢^ノぢ^ハなり^ハ
ま^ハも^ハ一^ノ之^卷二^ノ之^卷を^ハり^ハい^ハる^レ漢^ノぢ^ハなり^ハ
ヒ^トツ^又ハ^ヒト^ニキ^ニア^{タル}キ^ヲハ^リい^ハる^レ漢^ノぢ^ハなり^ハ
國^ノ乃^ハ物^言ぢ^ハなり^ハ又^ハ日本^紀を^ハり^ハ夜^麻登^夫美^ノ訓^を此^記の
題^号の^訓あ^ハり^ハる^レ也^ナも^ハ聞^クる^レ本^ノより^ハ撰^ル者^ノ心^ハも^ハり^ハる^レ字^モ

音^コめ^ヨ讀^ムや^ハる^レ也^ナ有^リき^レ也^ナ彼^夜麻^登夫^美の^例は^ハり^ハる^レ也^ナ
布^琉許^登夫^美の^訓あ^ハり^ハ上^ノ卷^ハ迦^美都^麻伎^中卷^ハ那^加
都^麻伎^下卷^ハ斯^母都^麻伎^ノ訓^法一^ニ

諸本又注釋の事

此^記今^世は^流布^シる^本二^{あり}其^一ハ^寛永^のろ^ろ板^ハ彫^ル
本^ニて^字の^脱ら^る誤^シる^也なり^ハい^ハる^レ多^ク又^ハ訓^も誤^シ
は^字の^まり^ハ附^ルる^所ハ^ろろ^もい^ハる^レ也^ナい^ハる^レ也^ナ所^も元
て^いや^らし^今一^ハ其^後は^伊勢^の神^官あ^り度^會延^佳て
ふ^人乃^古本^ハぢ^ぢ校^テ改^正して^彫せ^らる^也なり^ハ此^ハか^の脱^ラ
ら^る字^も誤^シる^也大^カ直^シて^訓も^ろろ^り聞^ユ

るさきに附^ツり。されば又まゝふり。己^レがさか^レらをも加^ス
す。字をも改^メ知^ルや見え。中^ニなるさやも何^レ。此人^ハ
なして古語をさ^レべ^レ事^ハ趣^ヲをのみ。一^ニり思^ヒて訓^ス
ま^レ。其訓^ハの言も意もい^レ古よ^クあ^レびて。後世^ニなるや漢^カ
なるやのみ^ハなり。さ^レ用^フ法^キさあ^レびか^レて右の二^ツ
をおきて古本^ハのい^レやま^レい^レ今^ハのい^レや^レ得^レる^レを
己^レさ^レか^レく^レ一部^ハ得^テ見^ルる^レふ。誤^ハの^レなり^ハ多^ク
ま^レむ有^ルも。近^キさ^レる^レ又^カの延^佳が。ほ^レは^レ異^本やも
を比^シて^レそれ^もか^キも書^キ入^ルる^レ本^を寫^シる^レ本^又京^の
村井氏^敬が所^蔵る古^き本^{をも}見^るふ。此^らは^レと^殊ある^レこ

やもな^レて。誤^{のみ}多く。村井^がの。大^かと舊^キ印^本も^近
かり^る。其^後又^尾張^國名^見屋^{ある}真^福寺^やい^ふ寺^俗
の觀^音。ふ昔^{より}傳^言載^る本^を寫^{せる}と見^るふ。こ^の餘^の
本^やも^やの異^{なる}。然^るに^レ事^もを^りく^{ある}を^字の脱^{オチ}
し^る誤^{する}る^やの^殊な^るも^多く^{ある}。か^レば^レな^か今^世
もの誤^{なき}古^本の在^りか^くま^{なり}を^り。され^ば右^{の本}やも
も^{それ}り^も得^失る^やの互^{カヒ}有^りて見^合は^る。益^ハや^{ある}あ
や多^し。

○此記^むし^しと^る註^釋ある^レさ^やを^きら^る。元^々集^や
り^ふ物^よ。或^記云^フ古^事
記^釋云^ク。ま^の古^事記^釋註^曰云^クや^{ある}。

いひしし釋註やいふもの有ふやその誰作し
ら其名どふ他よ見えぬまして今聞えぬ物なり
此記の註やして名を作して引くるやあ
あぬやしてやをぬばいふやして

文體の事

はるその文漢文の格は書けり抑此記の古語を
傳ふる或旨やせしめる書あれば中昔れ物語文や
如く皇國乃語のまじり一ももつ字假字書ふ
せしははるまといふれば漢文の物せしめ
つ事りして其ゆきを委曲し示さむ先大御國もや文字
はなすめしりば今神代乃文字やいふ物ある上代の
後世人の偽作もいふやして

古事や何も直人人の口は言傳耳は聽傳り來ぬ
ふもや後外國より書籍や云物渡參來て
來りし記は應神天皇の御世は百濟乃國より和迹吉師
てふ人よ記を論語や十字文やを貢りて
是を奈良乃る伝も然言傳りて
あも外國人の參入りし書紀は崇神天皇乃御世は始て弥
摩那國人又垂仁天皇の御世は新羅國主子天之日乎
通ふるや漢國乃書いし渡らざりむ
御國乃使かしこ至るや云り漢や異國や
とあるは彼國は大使を遣はし
そ始なり又韓の國は
皇后の乃國言向坐し
しも決りか和迹がまの事
ふ然ふ神武天皇の御時より
思ふ人もあはる書紀を一見り見てあ

あるをよくも考ず。文のまじきを此間の言として讀ふ
まに意得ふあらざるも思ふが如し。其を此間の言として讀ふ
らひ。その義理をもわきまを治めあてり。書紀又應神天皇
十一年太子の百
濟の河直岐又王仁は。經典をなして。其文字を用ひ。その
よくさやめ賜りし。その見えし。其文字を用ひ。その
書籍の語を借て。此間乃事をも書記し。そのやまのあはれ。
書紀履中卷四年云々。さしやその書籍て。物に。みを異國
前より引るが。さしや。その語に。用格もなみも。甚く異なれば。や
れ語を借て。此間の事を記し。全く此間の語乃まじき。は。
書取が。か。故。萬事かの漢文乃格乃まじき。に。な。書
な。ひ。来。よ。げ。故。奈良乃御代の。ころ。至。ふ。まで。も。物。よ
書。ふ。か。ぎ。あり。此間の語に。隨。ある。の。を。さ。く。見。え。ば。万葉の

や。の。歌。の。集。む。の。端。辞。な。み。な。漢。文。ある。を。見。て。も。志
は。ば。し。かの。物語。書。あ。の。の。お。ゆ。く。これ。語。の。ま。じ。に。物。書
事。の。今。京。お。な。り。て。平。假。字。や。り。し。の。出来。て。の。後。よ。始。ま
む。り。但。し。歌。や。祝。詞。や。宣。命。詞。や。これ。の。み。の。い。や。古。より。
古。語。の。ま。じ。に。書。傳。り。し。は。ゆ。り。の。言。又。文。を。な。して。麗。く
お。よ。す。て。唱。り。擧。げ。て。神。も。人。に。も。聞。感。し。た。歌。の。詠。め。も。の
は。物。よ。て。一。字。も。違。ひ。て。の。悪。あ。る。故。よ。漢。文。よ。の。書。が。し。げ
お。バ。ぞ。か。し。故。歌。の。此。記。や。書。紀。や。の。載。せ。る。如。く。お。字。の。音
を。の。み。假。て。か。ま。る。こ。の。を。假。字。や。り。し。の。假。字。や。の。加。理。那
は。そ。の。ま。じ。に。お。よ。す。音。の。み。を。假。て。櫻。を。佐。久。羅。雪。を。由。伎。や。書
ふ。ま。じ。に。や。り。那。の。字。や。り。ふ。ろ。や。を。あ。字。を。古。名。や。い。ま。あ。こ

ふもまぬの用ひしり。平城のちまぐりの元て此借字は書は常れ事として云きてゆきまは假字や同じりやあるを後世よなめてらるる文字よのみ心をあはるる故よ。それはいちむかぬや古の言を主として字よのこも拘らざりしりばいりさぬも借てあまなるなり。四よの右の三種の内を此彼交りて書はものあり。さて上件の四とこの外よ又所由ありて書あはるる一種ある日下春日飛鳥大神長谷他田三枝のぬきひ是なり。

假字の事

此記よ用ひしる假字のかぶり城左よあはる。

ア 阿 此外よ延佳本又一本よ白檮原宮段よ亞亞の
あ假字あはるも誤字見えしり。其由は彼處お辨法し。

イ 伊

ウ 宇 汗 此中お汗字の上卷石屋戸段よ伏汗氣の
一あはるのみあり。

エ 延 愛

神名愛比賣ののみあり。此中よ愛字の上卷よ愛表登古愛表登賣の

オ 淤 意 隠

一於字何れがも一本お淤何れが後の誤なり。隠字の國

名隠伎ののみあり。

カ加迦訶甲可

音濁 賀何我

此中小甲字ハ甲斐也

知言のみ用ひり。國名のみならずカヒヤ也

可字ハ中卷輕嶋宮段大御歌ハ阿可良氣美也

可。下卷朝倉宮段歌ハ延佳本ハ可賀字ハ清濁ニ通り用

ふやいふ人も何れ也然らば必濁音なり。記中の歌ハ此字

よそ百三十あまりある中必清音なる所をやういふ

だ五のみよして其餘百二十あまりハ濁音の処

みかり我字ハ中卷ハ姓の藤我れみり。下卷ハ宗賀也

キ伎紀貴幾吉

清濁 通用 岐

音濁 藝疑棄

此中小伎字ハ岐

字ハの間ハ疑ハしきやあり上卷ハ初也

ちがハ清音ハ伎字を用ひ岐字ハ濁音ハのみ用ひて清

濁分也。後ハ清濁共ハ岐をのみ用ひて伎を用ひて

はり。上卷ハ千矛神御哥ハ伎許志也。中卷

白檮原宮段ハ伊須ハ岐伎輕嶋宮段ハ迦豆伎

段ハ伊波迦伎加泥且朝倉宮段ハ由ハ斯伎

也。抑記中凡テ一假字を清濁ニ兼用ひり

思ハ本ハ清音ハ處ハ終までみや伎字なり

似ハ後ハ誤てみな岐ハ混也。今ハ定也

姑ク岐をハ清濁通用也。貴字ハ神名阿遲志貴のみ

なり。歌み此。幾字ハ。河内の地名志幾のみなり。大倭乃ハ
字を書記。みふ師木

かきり。吉字ハ。國名吉備。歌ハ。岐カネキシ。姓吉師のみなり。疑字ハ
上卷ハ。佐疑理。霧ホ。中卷ハ。泥疑。三カ。須疑。過ナリ。乃みあり。

棄字ハ。上卷ハ。奴棄字豆ハ。あるのみなり。同ト。今一。何ハ。此
ハ。奴岐。言乃今一。何ハ。此

ク久玖。音濁。具。此中ハ。下字ハ。上卷ハ。久羅下。海ガ
ケ氣祁。音濁。宜下牙。此中ハ。下字ハ。上卷ハ。久羅下。海ガ

ク許古故胡高去。音濁。碁其。此中ハ。故字ハ。上卷歌ハ。故
志能久迹ハ。只一。あるのみなり。文ハ。高。胡字ハ。中卷白檮

原宮段ハ。盈ハ。志夜胡志夜。ニ。下卷甕栗宮段。歌ハ。宇良胡
本斯。之ハ。のみなり。去字ハ。白檮原宮段ハ。志祁去岐ハ。ある

此ハ。非。高字ハ。地名高志ハ。人名高目
即女丸高王ハ。之ハ。のみなり。碁字ハ。或ハ。碁字ハ。作ハ。處

也。是ハ。本ナリ。ニ。カ。思ハ。諸本互ハ。異ハ。し
て。定マ。本ハ。一。誤ア。二。ハ。あり

形。カ。何。正。今言。カ。姑。多
方ハ。定。基。誤。上卷歌ハ。只一。あり

み。其。の。同。言。乃。前後。多。く。あり。み。碁。基。字。を
書。是。ハ。其。の。字。乃。誤。ハ。あり

サ。佐。沙。左。音濁。邪奢。此中ハ。沙字ハ。神。名人。名。地名。ハ。往

誤なり。

○古事記傳一

世勢世

濁音 是

ノ曾蘓宗

濁音 叙

此中ノ曾字ハ、なほ清音ノのみ

用ひしテニラハ。辭ノゾハ濁音ハ。あまハ此字を用ひし。

書紀万葉ハ故ハ。辭ノゾハ古ハ清スミて云ふハ。やハ思

可ハ也。中卷輕嶋宮段歌ハ。三處まで叙字をも用ひ。又某

ゾハやハしハひハやハぢハやハるハゾハもハ多ハくハ叙を用ひしハ。清音ノ

あハらハ然ハふハそのハいハひハやハぢハむハるハやハらハ乃ハゾハもハ一ハ二ハ曾

を書は處もあり。然ハ此字清濁ハ通ハしハ用ひしハ。清

も思ハ可ハ也。記中ふハ。例もハ。又辭ハノゾハをハおハよハてハ他ハノ濁

音ハ用ひしハ。處ハあハまハれハ。今ハ清音ハ定ハ然ハ。そハもハ此字

辭ハノゾハふハ乃ハみハ濁音ハ用ひしハ。猶ハよハくハ考ハしハ。宗字

ハ。姓阿宗宗賀ハのみあり。

夕多當他

濁音 陀太

此中ノ當字ハ、當藝志美ハ命ハあハこ

當藝斯當藝野當岐麻ハあハのハみハなり。他字ハ地名多ハ他ハ那ハ美

下卷高津宮段歌ハ。他賀ハ誰ハなり。ろハ乃ハみハなり。太字ハ下卷列

木宮段ハ。品ハ太ハ天皇ハやハあり。此御名餘ハハ皆ハ。又朝倉宮段歌ハ。

延佳本ハ。太陀理ハ線柱ハなり。やハありハ。ハハらハらハ改ハ然ハるハのみ

ありハてハむハぐハらハなり。諸本ハみハかハ本陀理ハありハるハをハらハるハの

わハらハるハのハ太陀理ハ乃事ハハ。まハこハ中卷ハもハ阿太ハ之ハ別ハなりハ。姓

那賀乃比登又加流乃表登賣又比志呂乃美夜ナガノヒト又加流カ乃表登賣ヲ又比志呂ヒ乃美夜メこれらのみ

ハ波音濁婆

ヒ比肥斐卑音濁備毘此中ハ卑字ハ天之菩卑命此御名比

フ布賦音濁夫服

子賦斗迹命又地名伊賦夜坂波迹賦坂コフこれのみあり服

字ハ地名伊服岐のみあり

へ幣閉平音濁辨倍

さて幣字ハ幣字ハ作る處も有り其ハ誤カケハなる其説全

く上の基ハ基ハ如ハ辨字ハ弁ハも作る處あるハ同ト

るハ心得て寫誤スなるなりハ釋を尺慧を惠ハ書類ハ

字の畫少ク書易きを借し書例あり辨をも此ハ通ハ

此字をとも用ひハ同ト也ハ心得るものなり別ハ

別ハ弁字ヤセむも事もなかり然ハハ

ホ富本菩番蕃品音濁煩此中ハ本字ハ上卷ハ一も

なくして中卷下卷ハ多く用ひハ菩字ハ天之菩卑命ハ中

卷ハ加牟菩岐ハこれのみあり番字ハ番能迹ハ藝命又番登

ハ一の誤みもある法ハ品字ハ中卷ハ品牟智和氣命ハあ

ハの誤なりハ同御名を下ハ本字を書ハそのハハホムハの二音ハこれ

われ用ひり。

一 麻摩

三 美微彌味

此中ふ彌字ハ神名彌都波能賣彌豆麻岐

ま下卷高津宮段ニ意富岐彌此言餘ハ美字を々きり遠飛鳥宮段ニ

和賀多彌ミろれれみなり味字ハ中卷ニ佐味那志尔ニ

を一なり。

ム 牟无武

此中ふ无字ハ國名无邪志のみあり武字ハ

國名相武乃みなり相摸作をも本もあ

メ 米賣咩

此中ふ咩字ハ中卷輕嶋宮段末人名當麻之

咩斐のみなりこ正しくい咩作字なり

モ 母毛

此外ニ下卷高津宮段歌ニ文字一あり誤あ

る 流し

ヤ 夜也

此中ふ也字ハ上卷歌の結ニ曾也ツヤ只一あり

れみろし疑何しを水や姑くあきや其哥の処ニ云流し

ユ 由

ヨ 余用與豫

此中ふ豫字ハ國名伊豫中卷下卷ハ又

豫母都志許賣のみなり

ラ 羅良

リ 理

ル 琉流留

レ 禮

口 呂路漏侶盧樓

此中ふ路字ハ上卷ニ斯路岐ニ久

路岐のみあり中卷下卷ハ白黒の口ニみふ漏字を用ひ

しり侶字ハ佐久々斯侶のみあり盧字ハ意富牟盧夜乃み

なり樓字ハ摩都樓波奴ハあり此言今一ありハ漏字をり

ワ 和丸 此中ふ丸字ハ地名丸迹乃あり此ハ訓ニ非

牛 韋

工 惠

ヲ 袁遠

上件の外ニ記記游劔梯之天未末且徴彼衣召此忌計

酒河被友申祀表存在又これハ假字ニ書る本あり

みふ写し誤りものなり

假字用格乃これハ大か天曆れこれより以往の書やハ

みな正しくして伊韋延惠於表乃音又下ニ連る波比布

同本ハ阿伊宇延於和韋字惠表ハのめむみみれ誤り

はこれ一もなり其ハみ恒ニ口ニハ語乃音ニ差別あ

るものなり然るを語の音ハ古も差別のなりしを

みしきハ假字乃るなり書分ハ語の音ハ差別あり何ふ

や假字乃るなり書分ハ語の音ハ差別あり何ふ

きを以てハ語音ハみハり差別ありこれハ知法ハ

實^ミよ^ハ。微^ミを^カ。書^テ。美^カを^カ。書^ク。モ^ハ。の^ハ。毛^モ母^モを^カ。普^ク。用^ヒ。ひ^ク。
ふ^ハ。中^ハ。小^ハ。妹^{イモ}百^モ雲^{クモ}あ^ハ。の^ハ。モ^ハ。の^ハ。毛^モを^カ。み^テ。書^ク。母^モを^カ。わ^ク。び^ク。
ふ^ハ。の^ハ。比^ヒ肥^ヒを^カ。普^ク。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。火^ヒの^ハ。肥^ヒを^カ。の^ハ。み^テ。書^ク。比^ヒを^カ。
わ^ク。の^ハ。生^{オヒ}此^ヒに^ハ。の^ハ。斐^ヒを^カ。み^テ。書^ク。比^ヒ肥^ヒを^カ。わ^ク。び^ク。の^ハ。備^ビ
毘^ヒを^カ。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。彦^{ヒコ}姫^{ヒメ}の^ハ。に^ハ。濁^リの^ハ。毘^ヒを^カ。み^テ。書^ク。備^ビを^カ。
書^ク。び^ク。ケ^ハ。の^ハ。氣^キ祁^ケを^カ。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。別^{ワケ}の^ハ。ケ^ハ。の^ハ。氣^キを^カ。み^テ。書^ク。
て^ハ。祁^ケを^カ。書^ク。び^ク。辞^{コトバ}の^ハ。ケ^ハ。リ^ケ。レ^ケ。の^ハ。祁^ケを^カ。み^テ。書^ク。氣^キを^カ。わ^ク。び^ク。
ギ^ハ。の^ハ。藝^ギを^カ。普^ク。用^ヒ。ひ^ク。に^ハ。過^{スギ}禱^{ネギ}乃^ハ。ギ^ハ。の^ハ。疑^ギ字^ジを^カ。の^ハ。み^テ。書^ク。
て^ハ。藝^ギを^カ。書^ク。び^ク。ソ^ハ。の^ハ。曾^ソ蕪^ソを^カ。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。虚^{ソラ}空^{カラ}の^ハ。ソ^ハ。の^ハ。蕪^ソ
を^カ。み^テ。書^ク。曾^ソを^カ。わ^ク。び^ク。ヨ^ハ。の^ハ。余^ヨ與^ヨ用^ヨを^カ。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。自^{ヨリ}

れ^ハ。意^イの^ハ。ヨ^ハ。の^ハ。用^ヨを^カ。乃^ハ。み^テ。書^ク。余^ヨ與^ヨを^カ。わ^ク。び^ク。又^ハ。の^ハ。奴^ヌ怒^ヌを^カ。
普^ク。用^ヒ。ひ^ク。中^ハ。の^ハ。野^ヌ角^{ツノ}忍^{ニシ}篠^{シノ}樂^{ラク}あ^ハ。後^{ノチ}世^ノの^ハ。の^ハ。や^ハ。い^ハ。ふ^ハ。ふ^ハ。
は^ハ。怒^ヌを^カ。の^ハ。み^テ。書^ク。奴^ヌを^カ。わ^ク。び^ク。右^{ミダリ}の^ハ。記^キ中^ノの^ハ。同^{ドウ}言^{ゴン}れ^ハ。数^{スウ}處^{トコロ}に^ハ。出^デ
く^ハ。試^シ験^{ケン}て^ハ。此^{コノ}彼^レ挙^ケる^ハ。み^テ。わ^ク。り^ハ。此^{コノ}類^{ルイ}乃^ハ。定^{テイ}まり^ハ。わ^ク。り^ハ。餘^{ホカ}ふ^ハ。
も^ハ。多^{オホ}り^ハ。此^{コノ}の^ハ。此^{コノ}記^キ乃^ハ。み^テ。あ^ハ。る^ハ。び^ク。書^ク。紀^キ萬^{マン}葉^{エフ}わ^ク。レ^ハ。假^カ字^ジも^ハ。
此^{コノ}定^{テイ}まり^ハ。わ^ク。の^ハ。ぐ^ハ。見^ミえ^ハ。る^ハ。よ^ハ。や^ハ。其^{ソノ}の^ハ。いま^{イマ}ど^ド徧^{ヘン}く^ハ。も^ハ。え^ハ。験^{ケン}び^ク。ふ^ハ。
か^ハ。あ^ハ。る^ハ。ふ^ハ。考^{カウ}ふ^ハ。法^{ホウ}き^ハ。る^ハ。や^ハ。あり^ハ。然^{シカ}し^ハ。も^ハ。此^{コノ}記^キの^ハ。正^{テイ}しく^ハ。精^{セイ}
し^ハ。き^ハ。ふ^ハ。の^ハ。及^キ。び^ク。ざる^ハ。もの^ハ。ぞ^ハ。抑^ヨ此^{コノ}事^ジの^ハ。人^{ヒト}の^ハ。いま^{イマ}ど^ド得^エ見^ミ顯^{ケン}さ^ハ。
ぬ^ハ。る^ハ。や^ハ。あ^ハ。る^ハ。已^イ始^シて^ハ。見^ミ得^エく^ハ。ふ^ハ。凡^{ソト}て^ハ。古^コ語^ゴを^カ。解^トく^ハ。助^タけ^ハ。な^ハ。
は^ハ。あ^ハ。る^ハ。い^ハ。が^ハ。多^{オホ}き^ハ。ぞ^ハ。わ^ク。り^ハ。

○二合の假字

るゝ人名や地名のみあり。

女 <small>メ</small>	夜 <small>ヤ</small> 和 <small>ワ</small> 氣 <small>ケ</small> 命 <small>メイ</small>	波 <small>ハ</small>	直 <small>チキ</small>	祢 <small>ネ</small>	サ又 <small>サ</small> 讚 <small>ズ</small>	余 <small>ヨリ</small> 理 <small>ヒ</small> 比 <small>ヒ</small> 賣 <small>メ</small> 香 <small>カ</small> 坂 <small>カ</small> 王 <small>ノミ</small>	壹 <small>イチ</small> 比 <small>ヒ</small> 韋 <small>キ</small> 壹 <small>イチ</small> 師 <small>シ</small>	アム <small>ア</small> 淹 <small>ム</small>	淹 <small>アム</small> 知 <small>チ</small>	イニ <small>イ</small> 印 <small>ニ</small>	印 <small>イニ</small> 惠 <small>エノ</small> 命 <small>メイ</small>	印 <small>イニ</small> 色 <small>シキ</small> 之 <small>ノ</small> 入 <small>イリ</small> 日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	イチ <small>イ</small> 千 <small>チ</small>
ラカ <small>ラ</small> 樂 <small>カ</small>	品 <small>ホム</small> 陀 <small>ダ</small> 和 <small>ワ</small> 氣 <small>ケ</small> 命 <small>メイ</small>	ハハ <small>ハ</small> 伯 <small>ハク</small>	ツク <small>ツ</small> 筑 <small>ツク</small> 竺 <small>ツク</small>	夕 <small>タ</small> 二 <small>ニ</small> 丹 <small>ニ</small> 且 <small>ニ</small>	讚 <small>サズ</small> 岐 <small>ギ</small>	王 <small>ミコ</small>	師 <small>シ</small>	イニ <small>イ</small> 印 <small>ニ</small>	カグ <small>カ</small> 香 <small>ク</small>	群 <small>グ</small> リ	平 <small>ヘ</small> 群 <small>グ</small> リ	相 <small>サガ</small> 模 <small>ム</small> 相 <small>サガ</small> 樂 <small>カ</small>	カゴ <small>カ</small> 香 <small>ク</small>
相 <small>サガ</small> 樂 <small>カ</small>	和 <small>ワ</small> 氣 <small>ケ</small> 命 <small>メイ</small>	伯 <small>ハク</small> 伎 <small>キ</small>	筑 <small>ツク</small> 紫 <small>シ</small> 竺 <small>ツク</small> 紫 <small>シ</small>	丹 <small>タニ</small> 波 <small>ハ</small> 且 <small>ニ</small> 波 <small>ハ</small>	レ <small>レ</small> キ <small>キ</small> 色 <small>シキ</small>	群 <small>グ</small> リ	香 <small>カク</small> 山 <small>ヤマ</small> 香 <small>カク</small> 用 <small>ヨ</small> 比 <small>ヒ</small> 賣 <small>メ</small>	印 <small>イニ</small> 色 <small>シキ</small> 之 <small>ノ</small> 入 <small>イリ</small> 日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	平 <small>ヘ</small> 群 <small>グ</small> リ	サガ <small>サ</small> 相 <small>ガ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	ス <small>ス</small> ク <small>ク</small> 宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>
九 <small>ク</small> て古書地名小此類の多し	末 <small>ミツ</small> 末 <small>ミツ</small> 羅 <small>ラ</small>	ハカ <small>ハ</small> 博 <small>カ</small>	ツミ <small>ツ</small> 曇 <small>ミ</small>	夕 <small>タ</small> キ <small>キ</small> 當 <small>タ</small>	印 <small>イニ</small> 色 <small>シキ</small> 之 <small>ノ</small> 入 <small>イリ</small> 日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	相 <small>サガ</small> 模 <small>ム</small> 相 <small>サガ</small> 樂 <small>カ</small>	香 <small>カク</small> 山 <small>ヤマ</small> 香 <small>カク</small> 用 <small>ヨ</small> 比 <small>ヒ</small> 賣 <small>メ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	サガ <small>サ</small> 相 <small>ガ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	ス <small>ス</small> ク <small>ク</small> 宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>
	ムク <small>ム</small> 目 <small>ク</small>	博 <small>ハカ</small> 多 <small>タ</small>	阿 <small>ア</small> 曇 <small>ツミ</small>	當 <small>タ</small> 麻 <small>マ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	相 <small>サガ</small> 模 <small>ム</small> 相 <small>サガ</small> 樂 <small>カ</small>	香 <small>カク</small> 山 <small>ヤマ</small> 香 <small>カク</small> 用 <small>ヨ</small> 比 <small>ヒ</small> 賣 <small>メ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	ス <small>ス</small> ク <small>ク</small> 宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>
	高 <small>コ</small> 目 <small>ク</small> 郎 <small>ラ</small>	品 <small>ホム</small> 品 <small>ホム</small>	ナニ <small>ナ</small> 難 <small>ニ</small>	難 <small>ニ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	相 <small>サガ</small> 模 <small>ム</small> 相 <small>サガ</small> 樂 <small>カ</small>	香 <small>カク</small> 山 <small>ヤマ</small> 香 <small>カク</small> 用 <small>ヨ</small> 比 <small>ヒ</small> 賣 <small>メ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	日 <small>ヒ</small> 子 <small>コ</small> 命 <small>メイ</small>	ス <small>ス</small> ク <small>ク</small> 宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>	宿 <small>スク</small>

○借字 是も人名や地名の多し。

ウ <small>ウ</small> 菟 <small>ウ</small>	工 <small>コ</small> 江 <small>エ</small> 枝 <small>ジ</small>	カ <small>カ</small> 鹿 <small>カ</small> 蚊 <small>モ</small>	キ <small>キ</small> 木 <small>キ</small> 寸 <small>ソウ</small>	ケ <small>ケ</small> 毛 <small>モ</small>	コ <small>コ</small> 子 <small>シ</small>	サ <small>サ</small> 狹 <small>キヤ</small>
レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>	レ <small>レ</small> 師 <small>シ</small>
夕 <small>タ</small> 田 <small>テン</small> 手 <small>テ</small>	夕 <small>タ</small> 野 <small>ヤ</small> 沼 <small>ノ</small>	夕 <small>タ</small> 道 <small>ダウ</small> 千 <small>セン</small> 乳 <small>ニヤウ</small>	夕 <small>タ</small> 津 <small>シン</small>	夕 <small>タ</small> 手 <small>テ</small> 代 <small>ダイ</small>	夕 <small>タ</small> 戸 <small>ト</small> 砥 <small>テイ</small>	夕 <small>タ</small> 名 <small>メイ</small>
二 <small>ニ</small> 丹 <small>ニ</small>	又 <small>マタ</small> 野 <small>ヤ</small> 沼 <small>ノ</small>	ネ <small>ネ</small> 根 <small>ネ</small>	ハ <small>ハ</small> 羽 <small>ウ</small> 齒 <small>シ</small>	ヒ <small>ヒ</small> 日 <small>ニチ</small> 氷 <small>ヒョウ</small>	ヘ <small>ヘ</small> 戸 <small>ト</small>	ホ <small>ホ</small> 穂 <small>ソウ</small> 大 <small>ダイ</small>
一 <small>イチ</small> 間 <small>カン</small> 真 <small>シン</small> 目 <small>メ</small>	三 <small>サン</small> 見 <small>ケン</small> 海 <small>カイ</small> 御 <small>ゴ</small> 三 <small>サン</small>	メ <small>メ</small> 目 <small>メ</small>	モ <small>モ</small> 裳 <small>ショウ</small>	ヤ <small>ヤ</small> 屋 <small>ヤ</small> 八 <small>ハチ</small> 矢 <small>ヤ</small>	ユ <small>ユ</small>	
湯 <small>ユ</small>	井 <small>イ</small> 井 <small>イ</small>	ヲ <small>ヲ</small> 尾 <small>ビ</small> 小 <small>コ</small> 男 <small>ヲ</small>				

上件の字やも常以多く借字小用ひしり。但し此字やも書く。皆借字なりやいし。正字ある處も多く。

又正字也。借字也。さざりふ辨可かきよめり。多
 正。又借字ハ。此字が。以て限る。みもあ。び。大か。を
 挙。ふのみ。や。り。或人。借字も。即。假字。あ。び。別。借字。い。あ
 る。ゆ。の。有。法。も。あ。び。又。古書。假字。訓。を用。ひ。あ
 び。な。り。も。云。法。も。い。ゆ。い。の。精。か。假。字。借。字。い
 ひ。も。て。ゆ。ま。い。同。い。あ。び。も。此。記。も。書。紀。も。歌。又
 訓。注。あ。び。訓。を用。ひ。あ。び。一。も。な。し。其。正。き。假。字
 乃。例。非。る。が。故。なり。此。を。も。て。借。字。ハ。別。一。種。あ。び。あ。び
 を。知。法。し。別。一。種。あ。び。故。其。目。を。立。て。借。字。ハ。云。ふ。
 ○二合此借字

アナ穴	イク活	イチ市	イナ縮	イハ石	イヒ飯
イリ入	オレ忍押	カタ方	カネ金	カリ刈	クシ櫛
クヒ杵	クニ熊	クラ倉	サカ坂	シロ酒	シロ代
スキ鋸	ツチ椎	ツ又角	トリ鳥	ハタ幡	フル振
ニタ俣	ニへ前	ミ、耳	モ口諸	ヨリ依	ワケ別
ヲリ折	ニヤ	一音	此借字	全	同

の借字。上件乃外。あ。び。多。か。る。を。今。ハ。一。種。其。中。あ。ま
 と。處。又。見。あ。び。を。え。り。出。て。此。彼。あ。び。み。あ。り。

訓法の事

凡て古書の語を嚴重め。な。中。あ。び。此。記。ハ。殊。然。あ。る

ア〜ッバ古語を違字で記す。い〜書取が〜故。ま
び人乃口ふ熟誦あ〜い〜後。其言の隨ふ書録さし
あむの大御心もぞ有まむかし。當時書籍あ〜解ゆ人の語
失はぬ代われば阿礼がよみひあるも漢文乃舊記
よ本録くやの云も語乃よめ此間乃古語よか録して
口ふ唱言あ〜ろあ〜賜するものぞ然せば直書
より書ふかきろあ〜本乃漢文のふり離れあ〜まれ
バなり或人其時既は諸家乃記録やも誤ありやあ〜り
阿礼何書の書ふよりて実の古語をば誦なりするあ〜り
や疑ふ其のそのあ〜誤なりは記録
と遺しゆもむをよ〜擇るも取らるや此大御志をよく思
ひはより奉て古語乃あ〜りあ〜ま〜き〜や誠知はし
ろれぞ大御國の學問の本なりをよ〜し語よあ〜は〜は
てふに義理をのみ旨やせむ〜の記録を作ら〜あむや
して先人乃口ふ誦習は〜賜らむい無用ぞやあ〜びや然
て次は此記を撰らせ〜事や云る處も舊辭の〜が
ひゆくあ〜を惜み賜ひ先紀の誤あるを正〜給は事やし
て安万侶朝臣ふ仰せてかの阿礼が誦らるる勅語の
舊辭を撰録さ〜むやあり此處も舊辭やあるを以て此
大御世の天皇に大御心ぞし〜もお〜は〜り奉はるし彼
淨御原天皇に撰録よ及び賜りて崩坐〜らあ〜乃舊辭の
阿礼が口よ留し〜を此平城の大御世に至て事遂行の
せ賜り〜り故安万侶朝臣の撰録さ〜る〜も彼天
皇〜らの大御志のま〜く旨や古語を嚴重くせ〜る

して先人乃口ふ誦習は〜賜らむい無用ぞやあ〜びや然
て次は此記を撰らせ〜事や云る處も舊辭の〜が
ひゆくあ〜を惜み賜ひ先紀の誤あるを正〜給は事やし
て安万侶朝臣ふ仰せてかの阿礼が誦らるる勅語の
舊辭を撰録さ〜むやあり此處も舊辭やあるを以て此
大御世の天皇に大御心ぞし〜もお〜は〜り奉はるし彼
淨御原天皇に撰録よ及び賜りて崩坐〜らあ〜乃舊辭の
阿礼が口よ留し〜を此平城の大御世に至て事遂行の
せ賜り〜り故安万侶朝臣の撰録さ〜る〜も彼天
皇〜らの大御志のま〜く旨や古語を嚴重くせ〜る

よて、のりやく見苦し、かや文章此事の、此、ふぐひをよよく辨
上古中古れ、躰製、くさく、別小論あり、此、ふぐひをよよく辨
言て、漢のありれ、刷らぬ、清らりや、古語を求て、訓讀し、
かよかくふこの漢の習氣を洗ひ去は、古學に務よ、有、
ける、然るを世これ物知人の、書紀を説る、さまあや、ふが漢
の潤色文乃みをむ、ゆして、その義理よの、あか、あかひ
て、本やある古語を、かや、かや、かや、かや、かや、かや、かや、
とあぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、あぢ、
は、異國の儒佛あやの、教誡の書、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
國の古書、然人の教誡を、かよあ、は、は、は、は、は、は、は、は、
を論、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
は語の外よ、何の隠、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ふあ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
い、後、又、當、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
せ、年、唯、い、く、度、も、古、語、を、考、明、ら、さ、さ、さ、さ、さ、
知、て、學、問、の、要、の、有、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ば、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
代の萬、乃、事、も、その、か、さ、乃、言、語、を、よ、く、明、ら、さ、さ、さ、
そ、知、さ、さ、物、の、あ、れ、漢、文、の、格、よ、か、さ、さ、書、を、其、隨、よ、訓、
ら、さ、さ、い、い、り、で、か、り、古、の、言、語、を、知、り、其、代、の、あ、り、さ、
も、知、さ、さ、古、き、歌、や、も、を、見、て、皇、國、の、古、乃、意、言、れ、漢、の、さ、

は語の外よ、何の隠、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ふあ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
い、後、又、當、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
せ、年、唯、い、く、度、も、古、語、を、考、明、ら、さ、さ、さ、さ、さ、
知、て、學、問、の、要、の、有、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
ば、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
代の萬、乃、事、も、その、か、さ、乃、言、語、を、よ、く、明、ら、さ、さ、さ、
そ、知、さ、さ、物、の、あ、れ、漢、文、の、格、よ、か、さ、さ、書、を、其、隨、よ、訓、
ら、さ、さ、い、い、り、で、か、り、古、の、言、語、を、知、り、其、代、の、あ、り、さ、
も、知、さ、さ、古、き、歌、や、も、を、見、て、皇、國、の、古、乃、意、言、れ、漢、の、さ、

廷のゆゑに。既く漢文のふりなる處も。往くいまどゆり。凡
人の口よりいふ言ひ。那良のころまで。漢文乃あり。いまだ
らざりし。やも書ゆ。あまよる。こやも。や。上代より。漢
文より引きて。おのぢ。そのふり。ふり。こやも。いさ
ののあり。ぞ。をむ。か。て。聖德太子。い。漢学を好
み賜ひ。其後孝徳天智の御世。や。ゆ。い。漢乃
事。漢を用ひ。ら。古語を傳。中。漢文。さ
ま。ら。有。統紀の宣命。又。後
の。や。漢字の音。い。言。い。書紀な
あ。皆古の。あ。い。作。加。漢意の
ま。又式。も。後。祝詞。凡。古き語。も
も。多。全。上代より傳。来。い。あ
ら。近江朝。浄御原朝。あ。定。齊。ら。け
や。見。是。漢文より。来。語の。清

な。い。あ。世。大。後。詞。を。全。く。神。武。天。皇。の。御。世。に。作
と。味。き。ら。や。や。此。詞。も。全。く。い。後。に。定。然。れ。見。え。て。
後。の。語。ち。き。ま。ど。ゆ。り。諸。の。祝。詞。の。中。に。最。古。き。い。出。雲。国。造
の。神。賀。さ。い。の。中。に。あ。り。も。い。あ。も。漢。文。き
あ。い。ち。な。を。ば。擇。去。て。取。い。さ。て。又。此。記。に。書。紀。に
此。歌。や。も。い。清。き。古。言。や。い。も。歌。や。い。此。詞。の。差
目。あり。て。い。さ。異。なる。處。の。あ。る。物。あ。い。其。を。辨。り。て
取。い。き。や。り。万。葉。に。歌。の。種。に。ふ。り。有。て。い。古。き。も。多。か
い。平。城。乃。ら。や。め。て。い。漢。文。より。出。る。意。言。も。ま
い。見。ゆ。い。又。是。を。辨。り。い。又。凡。て。漢。の。ら。い。あ
も。あ。い。古。後。世。の。差。有。て。語。の。い。異。なる

多し大か^{ナラ}と那良よりあま^ナの古語や定む^レ今、
京ゆ^レあて^レあ^レな^レら^レ。法^レな^レり^レひ^レま^レも古^レや^レ變^レ了^レる
るや多く或^レの音便^{コエタヨリ}よりりて類^レ多^レる言も多し^{音便の言}。
書^レ此^レ訓^レの用^レふ^レま^レき^レる^レや^レり。大御神^{カミ}をお^レん^レが^レ臣^シ
を^レあ^レん^レや^レ讀^レむ^レひ^レる^レや^レり。書紀の訓^レの^レか^レく^レま^レの^レ音
便^レ乃^レ言^レわ^レる^レ。古今集を始^レて物語文^レの^レか^レく^レま^レの^レ音
中^レ古^レ乃^レ雅言^レなり。伊勢源氏^ノの^レ餘^カも物語^レの^レ本^レより假字^レ
て書^レく^レる^レ物^レなり。故^レ返^レて古書^レより^レの^レ語^レも^レ漢^レ氣^レの^レま
ど^レら^レび^レて^レま^レさ^レる^レる^レや^レり。さ^レる^レの^レ漢^レ文^レより出^レる^レ語^レも
多く字音^レの^レ言^レも^レあ^レり^レや^レり。その^レな^レが^レの^レ皇國^レ語^レ乃^レふ
ま^レふ^レか^レな^レれ^レば漢^レ文^レの^レな^レり^レや^レり。中^レ古^レ乃^レ文^レの^レ事^レも別^レな
委^レき^レ論^レ。但^レ古^レや^レ後^レ世^レや^レも^レろ^レく^レれ^レ言^レあ^レや^レぐ^レ異^レな^レる^レもの
あり^レあ^レる^レ中^レふ^レの^レ神代^レも中^レ古^レも今^レ世^レも全^レ同^レく^レて^レあ^レは^レる
ぬ^レ言^レも亦^レ多^レあ^レる^レ。其^レの^レ必^レし^レも後^レ世^レの^レり^レひ^レま^レも^レ同^レく^レや^レ

て^レ避^レけ^レま^レふ^レあ^レる^レ。然^レる^レも後^レ世^レの^レ言^レや^レ同^レく^レま^レる^レを^レ嫌^レひ^レて
き^レの^レ中^レに^レ強^レ事^レな^レり^レて^レ正^レし^レか^レく^レる^レや^レり。近^レき^レあ^レ
る^レ古^レ学^レの^レ言^レも^レろ^レく^レる^レや^レり。元^レて^レお^レろ^レく^レる^レや^レり。近^レき^レあ^レ
み^レ後^レ世^レ乃^レさ^レま^レり^レ心得^レて^レ必^レず^レる^レや^レり。さ^レる^レの^レ聞^レな^レれ^レ
ぬ^レさ^レる^レを^レ乃^レみ^レ古^レ言^レや^レり^レひ^レが^レあ^レる^レや^レり。さ^レる^レ又^レ古
書^レ中^レふ^レい^レう^レと^レ考^レへ^レる^レも真^レの^レ古^レ言^レの^レ訓^レが^レま^レる^レや^レり。
其^レの^レも^レ古^レ言^レの^レ傳^レり^レあ^レる^レを^レ後^レ漢^レ字^レの^レ移^レせ^レる^レや^レり。
本^レの^レ古^レ言^レの^レ復^レび^レ難^レき^レこ^レの^レあ^レる^レま^レる^レや^レり。あ^レり^レな
る^レも漢^レ文^レより^レ傳^レり^レて^レ後^レ初^レの^レ古^レ言^レの^レ絶^レて^レお^レろ^レく^レる^レ
ぬ^レも有^レる^レ。又^レ皇國^レの上^レ代^レの^レ萬^レの^レ物^レも事^レに^レあ^レま^レり^レ細^レ
く^レ分^レて^レ名^レ稱^レを^レい^レ著^レび^レな^レる^レや^レり。此^レ言^レ語^レの^レな^レり^レて^レあ^レる^レ足^レ
り^レ。漢國^レの^レ言^レ語^レを^レい^レ言^レ痛^レき^レ風俗^レより^レ何^レ事^レも^レあ^レま^レ

アハルまで細コホ小名称のあるやれば此間コホのあが大か
小言傳イヒツタヲ来キたるも文字ナ小移シりやき其シれ名称ナのあ
はる當アテて書シふことやいと有ルてさる類ヒの本ホよめれ古言
の無ナきれやも次ツぎて字音ジあぐりの讀クはるなりひあひし
り後ノチ其狀シは從ツひて新アラタ小訓ミを造ツクるも有ルてしあやかる那
かまぐりの名ナ稱シやも字音ジなぐり唱ウタふるるやの
をさくなりりき漢籍カンシヤクをよむもよまぬかぎりの訓ミあ
とみ其ミの真マコトれ古言コゴやのあのありり同ドから惣物ソウモノやれや
も那良ナラまぐり出来イたるりのやが古言コゴや定マ定マてるおさるぬ時
は用ヨウふ法ホウして又マタ此記コノキの彼阿礼カノアが口クハ小誦習ヨミナラするを録シ
しる物モノやる中ナカふりや上ウ代ノのまま小傳コトワりりや聞クゆる語

も多オホく又マタ當時トキノトキの語コトをしやおがらた處トコロもお布フされば悉シく
上ウ代ノの語コトの訓ミがししらればならばならば地チを阿礼アが語コトや
定マ定マてるその代ノりり後ノチをして訓ミ法ホウをしりり又マタ意
得エ法ホウはあやあり同言ドウゴンれいく處トコロもあらをし一ヒトの委ウチく書シき
一ヒトの字ジを畧リヤクきしるりの委ウチき方カタや相照アヒテラして畧リヤクける方カタをし辞コトバ
を添ソベて訓ミ法ホウをしりり其例コトバをいはるり成ナリ流ル神カミ之ノ御名ミナ者ハやい
ぬ語コトを成ナリ神名カミやも所成ナリ坐神名イハも所成ナリ神御名カミやも書シ
はらが如スき所字シヨ坐字イハ御字ミしらひら畧リヤクきしるり詳シくも書シふり
て皆同語ミナモトなりり夜見ヨミ国クニの汚穢ケガレは因ユて成ナリまるり八十ヤチ槌津ツチ日ヒ神
神カミしらの天照アマテラス大御神オホミカミはし只ただ所成ナリやかきて坐イハ字ジを畧リヤク
きしるり是意コトバありりあやらさらかく書シふ物モノやして畧リヤクきし

方みも必添て訓法集法を註せしめり。然るも此格を
さやびしゆりや本此乱も誤も物ややあひ
ひがらまの上巻小天照大御神の詔ミコト。如拜吾前云々。中巻
大物主神の御言ミコト。令祭我御前者云々。御字畧け
亦方も必添て訓法よあや志し。元て御坐賜奉むゆの
字の多々の畧けよ。往々又添ても書は處のあるを以て。
餘をも准了訓法し。又同言を一の假字一の漢文よ書はる
やあり。其の漢文や方をも。假字の方ふなひて訓法し。
立天浮橋タシアンウキハシも書き。於天浮橋多志タシアンウキハシもかまらるがあやし。
此立字の注。訓立云多志タシや志シの元て此類。不伏
假字書の方。倣ひて訓法も例を思ひせむ。物やや。不伏
人ヒトや。麻都漏波奴人マツロハヌヒトも書は。是も同ト又同トはこれあ

やも。一の古語よか。一の漢文の格よ書はあやあり。神世
七代乃注カミナフタニシラ。上二柱獨神各云一代次雙十神各合二神云一
代也。や書るが如き。二柱の古語。十神二神の漢文あは。古
語の方よ倣ひて。十神をも十柱。二神字も二柱フタハシラや訓法。如
此一段の内コトツケ。同格の言を。古語や漢文やよ書變カキカハし。古
語の方を則ナリや。訓法も元ての例を志し。他
段タビ。神の数の擧アゲも。或の若干神。或の若干柱や書
る。あ。みな准了ナシラて訓法し。中下巻よ。御世ミヨの皇子ミコの
又二柱神三柱神フタハシラミヤハシラ。数カズをい。若干柱コトツケや書こ
も訓法し。其の文のさ。此類コトツケの柱ハシラ。言を添ソフま。神字を
ひて。か。か。あ。よ。又全マツルく一句や。や。

の漢文よりして古語よりいひ遠き書ざまの處も往々に
あるものなる殊小字には拘りもまじくも其意を得て其
事れさるる隨ひてかたよはさ古言を思ひ求めて訓法し
書紀神代卷小顧野之間此云美屢摩沙可利尔イリニトあるなり
其例なり又崇峻御卷哀不忍聽イリニトあるとイトホシガリ
カゴヒテや訓るなりも訓注のなきれやも其例はかたよ
又元て書紀の訓は古語多し其の多く此記は本を據て
附くる物ぞやト部氏の釋ありいす信イリニト然なり文字小
かたよはぬ古き訓の此記の言を取らざる多き然るも今
又此記の訓を求むる返りて又書紀の訓を取法さるや

を多し其の此記は漢文よれみ書て假字書ひざるも
處あるて漏るる古語のまじく彼紀の訓はれらるるあり
とありなり此記を訓法さるるばる大槪上件の如し
なり其處もよもいふは

○元て言ひ且尔テニ表波ハを以て連接ツグゆもれありてその且尔テニ
表波ハよりて言連接ツグのさるるれ意もさるるかゝ分はるる
さるるりかくて是を用るゆま上下相協アヒカチひて嚴イコシカある格サマあり
しあれば今古記を古語に訓むもそのれをよく考へて正タシ
しくしるるなり然るに漢文よの助字テあり且尔テニ表波ハ
ゆのみよして且尔テニ表波ハの如くあまりに意を分ワたさるる
に及ぶぬものなり故助字のやうくても文意の聞ゆるなり

さて古記のみを漢文なりば其を訓ふ。臣尔表波の訓者乃
心もて定むるもごりゆを近世よりをきく其格まりを明
らうふ識まする人なくして誤るるや常多し。抑漢文の意を
どうも得てよるば其訓語も意のりやしも違ひざれやも
臣尔表波のやゝひの違ふ。その格やも字いは多し。種
らびの雅語よりあはれか。その格やも字いは多し。種
種のおやありて甚く長きなり。これより初く難
し。故此の別ふ委曲なるは物あり。

○假字の清濁乃事上ふ云は如く此記まし書紀万葉の分
て用ひし中ふ此記の殊に正しきなり。嚴より清濁を
守りて讀法し一やの字やも私に輒く變讀法きふあはれ。
古や後世やの清濁のかりゆる言も多きなり。今世の言れ
例よはかへはめざるもよるなり。宮人里人の如き宮人の
比より古書の假字何も

もみや清音の比を乃み書き。里人の比より濁音乃昆をの
み書。然るを此類。凡て連言比下乃言の頭ハ皆濁る例や
心得るかあはれ。むがあやなり。其言よゆりて清濁定ま
らざるあや。右乃ごやし。大方近き。古学乃徒。殊に濁音
を好みて濁はまじき言をも多く濁るを古言乃ごや。思ふ
たるはむがあやなり。む。古書に假字がひをよく考合
せよむ。ごや。

○古言に聲の上と下との事。神御名やの内に上字を小
く書添へる處あるは。漢國は定ゆる四聲に目を假て讀
音の上下は示しあるものなり。凡て漢語の音より平上去
入や四乃別あり。此方此語も彼に准りて云は。平上去の三
聲あり。入声のや。其由の契沖が云く。平上去の三聲を一
音の言よていは。日ハ平。樋ハ上。火ハ去なり。毛ハ平。整ハ

ハ附^ツく處^ニあ^ルく只上聲のみ見^レゆる^ルハ如何^ニや^リぬ^ル元
 て言^レれ連^ツき^テ本^ノ聲^レれ變^ル例^ヲを考^ルふ平去乃上聲^ノか^ハ
 ぶ^ガ常多^クとして上聲の平去^ニ變^ルふ^ハ稀^ニあり^テ故^ニ記^ス中
 小聲^ヲを附^ツる中^ニ小^ノ平去^ノ附^ツる處^ハおの^ノち^ニ無^クあ^ラず
 一^ニ然^ルる^ハ宇^ノ比^ニ地^ノ迹^ニ上^ニ神^ノ須^ノ比^ニ地^ノ迹^ニ去^ニ神^ノ此^ノ去^ノ聲^ノ一^ニあ^ル
 ハ比^ニ地^ノ迹^ニ一^ニ同^ニ言^レれ^ル二^ニあ^ルび^テ一^ニの^ノ迹^ハ上^ニ聲^ノ一^ニの^ノ迹^ハ
 去^ノ聲^ノも^テ忽^ニ音^ノの異^{アル}が故^{ナリ}
 乃^ハ例^ニ同^ニし^キ去^ノ聲^ノ附^ツる^ハ方^ハ本^ノ聲^ノを^レ附^ツる^ハ例^ニよ^リ
 多く出^ル所^ハ大山^ノ上^ニ津^ノ見^ノ奥^ノ山^ノ上^ニ津^ノ見^ノお^ノの^ノ聲^ヲを附^ツけ

淤^ク膝^ノ山^ノ津^ノ見^ノ箇^ノ山^ノ津^ノ見^ノお^ノの^ノ附^ツは^ハ是^ハの^ノ附^ツる^ハ方^ハ山^ノを本
 音^ノ乃^ハま^ニ平^ノ聲^ノを讀^ツは^ハ又^ハ奥^ノ津^ノ嶋^ノ比^ニ賣^ノ命^ノ市^ノ寸^ノ嶋^ノ
 上^ニ比^ニ賣^ノ命^ノも^ハ然^ルあ^リか^ハの^ノ須^ノ比^ノ智^ノ迹^ニ去^ノ聲^ヲを附^ツ
 小^ノ山^ノ平^ノ嶋^ノ平^ノや^ノ附^ツる^ハ例^ニよ^リも^ハ本^ノ音^ノの^ノ方
 小^ノ彼^ノの^ノ初^ノま^ハか^ハひ^ハや^ノひ^ノきを^レ此^ノの^ノ多^ク此^ノ山^ノ津^ノ見^ノの^ノな
 ら^ハ彼^ノ中^ニ小^ノ附^ツる^ハ例^ニよ^リも^ハ本^ノ音^ノの^ノ方
 音^ノ乃^ハま^ニ平^ノ嶋^ノ比^ニ賣^ノ命^ノの^ノ山^ノ津^ノ見^ノ乃^ハあ^ハか^ハの^ノ聲^ヲを附^ツる^ハ例
 例^ニよ^リも^ハ明^ラら^クあ^リる^ハ例^ニよ^リも^ハ疑^ナな
 かく^ハ如^シ抑^神名^ヲを讀^ムも^ハ古^ハの^ノか^ハく^ハ其^ノ聲^ノの^ノ上^下を
 さ^ハ正^シ示^スて^ハ以^テ次^ニ語^ヲを嚴^重に^シて^ハ漢^ノ意^ノの^ノ理^ヲを^レの^ノみ^ス
 だ^シて^ハ語^ヲを^レあ^ハら^ウあ^ハし^テ心^ヲを^レお^もむ^ハ思^ヒ

さういふいふや。

○いりゆゑ助字の類記中用ひざる種あり。或いは漢文の方れ助は置体のみよて古語の關らぬも有り。或は漢文の方よいあつて置るがやうて古語はあつてもあつても或は漢文のかよて置るがやうて古語はあつてもあつても有り。いぢもよくよれあつて漢籍よて讀むの異あるあつて有り。故今こゝおその助字れよて又其餘も常ふ出体字やもよも此彼集出出して訓法きけをあげて訓法之能や訓よ尋常れよて但し必讀法きけ必讀まじりやあり大凡用言よ屬するの漢文乃格ふが捨て訓法

らび吾所生之子まゝ出向之時よめ。この類を能やの漢籍讀乃癖の移るよめ。よむの皇國語の必讀法し天之某國之某の類淡路之穂之狭別あや如此さよれ能てふ辞讀添法き處よ。丁寧以之字を書添て古語を明らかおせり。後世お誤て能を畧てよむがひ此記よ依て正法し。國之常立神をクニトコチ又一此方の昔れ漢文よ用ひなす字の字有り。凡て句終あや置る。漢人乃書る格お違るが。書紀やあも多きああそのあらひ必訓法くよ云く之の字もよむ法あらひまゝ云字や互よ写し誤る處多し。詔之を詔云やも作け

はるる一連^{ヒトツキ}乃語終^{マツ}りて次乃語の首^{ハジメ}より。うむる^{コト}び於^ニ是^ニ也
も故^{カレ}やも爾^{コトニ}やもい^ハる。此^{コト}三乃辞を用ひ^ハるるを考^カる
合^ハひるよ。其^{ソノ}處の語乃勢^{イキホヒ}に隨^ヒひ調^シに任^セせて置^クる乃み
あ^ハりて必^ズしも各異^{コト}ある意のあるよ。何^ニも^ハびさ^レぬばま^ニ
故^{カレ}爾^{コトニ}やも故^{カレ}於^ニ是^ニ也も重^{カサ}ぬても置^クは其^{ソノ}も同^ジく^ニや^ハあ^ハ但
一右乃三^ツのうち爾字の於^ニ是^ニ也ある處^ニも同^ジく勢^{イキホヒ}ある處^ニ
多くま^ニ故爾^{コトニ}や重^{カサ}ぬる^ハの多くあ^ハぬばも爾^{コトニ}於^ニ是^ニ也重^{カサ}ぬ
る處^ニの無^クし^ハる^ハを思^ハふ^ハみ^ハ許^{コトニ}と^ニ爾^{コトニ}や訓^クは^ハりて
如^{カレ}礼^レやの訓^クま^ニぎ^ハ如^シ然^ルも^ハ又^ニ稀^ニよ^ハ故^{カレ}字を置^クは
勢^{イキホヒ}や全^{モト}同^ジく^ニ許^{コトニ}と^ニ爾^{コトニ}や訓^クは^ハりて^ハ如^{カレ}礼^レや訓^クが優^ニし

は處^ニもあ^ハり。又あ^ハり頻^{シク}て多^クなる處^ニあ^ハる^ハ棄^テ讀^マじ
きも何^ニも^ハあ^ハり。大^クく^ハ爾^{コトニ}やも於^ニ是^ニ也故^{カレ}やもあ^ハる^ハみ^ハな
字^ノ初^メの曾^{ソノ}能^ク也^ハも訓^クは^ハり曾^{ソノ}許^{コトニ}傳^ハり^ハ勢^{イキホヒ}なる處^ニも爾^{コトニ}
爾^{コトニ}時^ニの曾^{ソノ}能^ク登^ル伎^ノや訓^クは^ハり許^{コトニ}能^ク登^ル伎^ノや訓^クは^ハり又
能^クや許^{コトニ}と^ニ同^ジく^ニ是^ニ也如^{カレ}是^ニ也本^ノ同^ジ言^ハふ^ハて^ハ如^{カレ}是^ニ也
者^ノ乃^ハ切^リま^ニあ^ハる^ハ又上^ニ卷^ニも自^ラ爾^{コトニ}やあ^ハる^ハ曾^{ソノ}礼^レ余^リ理^リ
如^{カレ}礼^レや訓^クも自^ラ通^スる^ハ又上^ニ卷^ニも自^ラ爾^{コトニ}やあ^ハる^ハ曾^{ソノ}礼^レ余^リ理^リ
也^ハも許^{コトニ}礼^レ余^リ理^リ也^ハも訓^クは^ハり中^ニ卷^ニも爾^{コトニ}崇^ル也^ハも曾^{ソノ}能^ク多^ク
理^リ也^ハも許^{コトニ}能^ク多^ク理^リ也^ハも訓^クは^ハり乃^ハ須^ス那^ナ波^ハ知^チ也^ハも訓^クは^ハり漢^ノ文^ノ
此^ノ字^ノま^ニ爾^{コトニ}字^ノや^ハ古^ク伊^ハ麻^マ志^シや訓^クは^ハり乃^ハ汝^ニ乃^ハ意^ハや^ハま^ニ
ぎ^ハれ^ハ初^メの^ハな^ハる^ハ法^ハも但^シし^ハ左^ニ日^ニ記^ニもい^ハま^ニ羽^ノ根^ノや^ハの
多^ク所^ニあ^ハる^ハ又^ニい^ハま^ニあ^ハる^ハ又^ニ只^シ漢^ノ文^ノの方^ニあ^ハりて置^クは^ハり
集^メてあ^ハる^ハ所^ニあ^ハり^ハ又^ニ只^シ漢^ノ文^ノの方^ニあ^ハりて置^クは^ハり
見^ユる^ハもあ^ハり然^ル處^ニ捨^テ讀^マじ^ハり^ハ即^チ乃^ハ字^ノ同^ジく

し稀^{ミレ}あり。又尋常^{ヨソツネ}れ如く訓處も多し。其中ふハ本より此
古語^{カラブミ}や漢文訓^{コト}の移^{ウツ}るや有^ルはし。是^{コト}以^テちや乃^{モテ}以^テの用^ツひど
ま其^{コト}初^メの漢文訓^{コト}よりや出^テきむ。さ^レゆ^ヘ此^レ類^也もい^ハく古^ノ
ま^レひ^ハち^ハり^ハる^ルや^ハ聞^クて^ハ辞^ヲ切^リき^ハい^ハく^ハあ^ルく^ハ万^ノ葉^ノ
歌^ハあ^ハり^ハも多^シ。古言^ノや^ハ^レな^シ。と^テ其^レを^モ母^ツ豆^テや^ハよ^ハむ^ハ。
後世^ノ乃^ハ俚言^{イヤキコト}あ^ハり^ハ云^ハよ^ハく^ハ母^豆訓^ムも畧^シる^ル辞^{あり}。
正^シく^ハ母^豆訓^ムは^ハ中^ノ卷^ノ歌^ハ岐^ノ許^志母^豆知^テ衰^勢下^ノ卷^ノ
歌^ハ加^カ微^ミ能^ミ美^ミ豆^豆知^テ比^比久^ク許^{コト}登^ト尔^ニ万^ノ葉^ノ二十^ノふ^ノ麻^ノ蘘^ノ渥^ノ毛^ノ知^テ
奈^ナ美^ミ太^ダ乎^フ能^ミ其^比。後^ノ世^ノや^ハ又^ハ三^ノふ^ノ我^ノ袖^ノ用^テ手^ノ將^カ隱^サ
乎^ヲ用^テ字^ヲを^レ書^クる^ルや^ハ石^ト以^テ而^テ十一^ノは^ハ何^カ有^ラ依^ラ以^テる^ル母^豆知^テ
也^ハ以^テ乃^ハ意^ヲや^ハり。

豆^テて^ハ小^ノ辞^ノの^ハ例^{あり}。
同^ノ十^ノふ^ノ手^ノ折^リ以^テ而^テ十五^ノふ^ノ奈^ノ尔^ニ毛^ノ能^ミ母^豆加^カ伊^ノ能^ミ知^テ都^ノ我^ノ麻^ノ之^レ
也^ハも^ハあ^ハり^ハ母^豆豆^豆訓^ムも^ハひ^ハが^ハる^ルや^ハい^ハあ^ハる^ル所^ノ生^ルを^レ字^ト
米^メ流^ル成^{ナル}を^レ那^ナ礼^レ流^ルや^ハい^ハが^ハ如^キ時^ニ。此^ノ字^ヲを^レ加^テ所^ノ生^ル所^ノ成^ル
や^ハ書^ル例^{あり}。此^ノ格^ヲ乃^ハ言^ハ餘^カも^ハみ^ハ然^レ。是^レを^レ万^ノ葉^ノよ^ハ。聖^ノ有^ル
成^{ナル}有^ルあ^ハり^ハ有^ル字^ヲを^レ添^テて^ハ書^ク。
又^ハ不^レ知^ル所^ノ出^ルる^ハ漢文^ノの方^ハ。右^ノ乃^ハ所^ノ生^ルあ^ハり^ハの^ハ所^ノ字^ヲや^ハ同^ノ格^ノ
あ^ハり^ハも^ハ語^ハへ^ハ不^レ知^ル可^レ出^ル之^レ處^ヲや^ハ書^ク意^{あり}あ^ハり^ハ登^ト許^{コト}呂^ノ訓^ム
下^ノ卷^ノ高^ノ津^ノ官^ノ段^ニ。女^メ鳥^ノ王^ノ之^レ所^ノ坐^ルや^ハあ^ハり^ハ坐^ル處^ノの^ハ意^{あり}あ^ハり^ハ
同^ノじ^ハ耳^ヲ記^ス中^ノ此^ノ字^ヲ皆^ハ漢文^ノの^ハ格^ノよ^ハあ^ハり^ハ置^クる^ルや^ハ常^ノれ^ハ如^シ

く能美也訓てい。古語よりなり。又別ニ訓法を格あり。例を
一ニ擧て諭さむ。欲奪吾國耳。吾國表欲奪登尔許曾阿
礼也訓法し。愛友故弟来耳。愛友那礼許曾弟来都礼也
訓法し。那礼許曾ハ。那礼婆
許曾也いふ意なり。起邪心之表耳。邪心表起世
流表尔許曾阿礼也訓法し。是者無異事耳。是者異事無
許曾也訓法し。如此訓て何事も許曾也云ふ耳の意あり
なり。其の地矣阿多良斯登許曾我那勢之命為如此也。阿
以地為可惜故我那勢之命為如此耳。云々。むや全同
意なるを以曉る法し。抑此字能美也の訓まじき所以ハ如
何のいふ。元て皇國語の能美ハ中間ののみ在るや。と

て終を此辞して結する。云々のいふをいふ。古語よりなり。と
はなり。然るを能美也結する。云々のいふも古語よりなり。後世
人のいふ。書紀允恭御卷歌。多儂比等用能未万葉十一。か
但一耳也。結する。あはれ。云々のいふ。唯一夜唯一人而已
めして。二夜も及ぶ。二人も無し。いふ意して。能美も
辞の重をいふ。漢文の軽々云捨する耳。の異なり。然ら
より此字も能美也の訓なり。いふ。いふ。故也。云々。漢文
漢文して此字ハ。詔決辞也。云々。何事も其事ハ決まらして。他
は。疑あり。意なる。云々。置は故なり。云々。漢文して
此訓なり。いふ。云々。然る。云々。能美也の
不辞を置る。皇国乃詔。云々。云々。凡て言乃意の同
トも。置用ひ。云々。云々。此方也。彼國也。差ある。云々。を
よく辨る。萬乃詞。亦麻多也。訓也。云々。母也。訓法も。云々

ろやあるを。且又字や同ト格お用ひり。注。字書も又也や。

麻多や訓法し。加都や訓むハ非あり。凡て此字を訓ム。麻多

や加都やの差別をいほ。漢籍ハ君子有酒多且旨や云ふ

が如きハ多きがうま。旨くうま。何れやハ意あり。

此意の且字ハ何れも麻多や訓法し。加都や訓ハあ。漢籍やも乃古き本ハ句頭ハ

句頭ハ何れも同ト云ふあり。且字を曾能字用や訓ハ

ろやあり。そのま。我歌且謡や云ふが如きハ。注。又曲合樂

謡やありて。歌や。歌ひし。又謡ひも。意あり。かくさま

の意乃且字ハ麻多や訓ても加都や訓ても宜きやあり。此二

漢文ハ同ト格あり。此方ハ言ふ。知して訓ハ。

かく差別あり。其中ハ麻多ハ廣む。何れも。加都ハ

加都ハ。此を志す。又彼をも。如き。伊勢物語。哥ハ。恨み。戀。云ふ

よ。如き。恨。戀。又戀。是。加都ハ。意。其。處。ハ。知。法。し。然。近

世乃人ハ。此。差別。を。且。字。を。加。都。や。訓。て。も。違。ハ。ぬ。ガ

る。故。ハ。麻。多。や。訓。法。を。加。都。や。訓。て。も。違。ハ。ぬ。ガ

皇國文をわく。誤。用。ふ。處。ハ。加。都。や。の。辭

を用ふ人多かる。故。今。わ。く。委。ハ。辨。り。わ。く。や。り。此。記。ふ

は。且。字。ハ。又。字。書。ハ。同。ト。云。ハ。意。得。る。ハ。及。其。及。其。や。あ

但。麻。豆。や。訓。法。を。一。二。あり。其。由。ハ。其。處。及。其。及。其。や。あ

亦及字麻多也訓法し。於余毘也訓ハ漢文訓ハして古語ハ
ウマリ抑麻多也訓法キ所由ハ天若日子之父天津國玉
神及其妻子也ありて又次ハ天若日子之父亦其妻也
亦及字也亦字也用ハレ全同トモラ八尺勾璉鏡及草那
藝劔亦常世思金神也國造亦和氣及稻置イナキあが一連の
内ハ及也亦也重カカ録也云ふ只同ト用ヒカカるを以
て知法し。但ハカカ同ト亦字を二ハ用ヒカカして一ハ
及字を用ヒカカ思カカ豆バ當時既ハ漢文訓ハ
ありカカ辞乃重カカなりてカカ於余毘也カカ有ハ故ハ麻多
む乃心カカして及字を書カカふもあカカむカカハ然カカらバ他カカを
もみカカ然訓カカむカカ何カカハ然カカらバ他カカを
但ハ麻多也訓て勢カカ何カカハ其語乃カカハ隨カカヒ

て登也波多也母下よあり返カカりて母也訓法し捨カカて讀カカま
ても有法し左右ハ於余毘也の訓カカまカカ記カカなり可カカハ
よの初ぬ乃カカ倍志也訓て宜カカハカカ可カカ選カカをカカ加幣理麻
勢也訓法キカカ如カカキもカカあり勿カカ不字の意カカ用カカヒカカ受也訓
法し書紀もカカ處カカあり此字常カカハ禁止之辞也注し
用カカ豆也此記ハ用カカヒカカ然カカ其ハ云カカハカカ訓法キ
らカカみカカ不字也カカ訓法キカカ處カカあり其ハ云カカハカカ訓法し
也訓てカカ通カカゆカカれカカ也カカ云カカハ世受也訓て正カカキ處あり
又非字也非字也ハ用カカ格異カカハ此方乃古書也ハ
不字を用カカ法カカキ處ハ非字を用カカヒカカ多カカキも此
也カカ雖カカ母也登母也訓法し此字漢籍カカ伊布登母也伊布カカ母也又
言カカなりカカ古言ハ伊布也カカ辞を添カカてカカ例多カカハ後
世乃言カカありカカ有カカるカカ訓法キ

有^レびや^レり^レふ^レる^レ無^レき^レ是^レ許^レ礼^レま^レと^レ許^レ能^レや^レ訓^レる^レや^レ常^レれ^レる^レ也^レし^レ
又^レ許^レ礼^レを^レ許^レや^レのみ^レも^レ古^レ言^レれ^レ一^レなり^レ其^レを^レ曾^レや^レり^レふ^レ吾^レ
ト^レ格^レ又^レ許^レ礼^レを^レ許^レく^レや^レり^レする^レる^レや^レも^レ多^レし^レ其^レを^レ曾^レ許^レや^レり^レふ^レ同^レ
於^レ是^レ也^レある^レ法^レを^レ是^レや^レ一^レ字^レ小^レ書^レは^レ處^レも^レあり^レま^レと^レ天^レ菩^レ比^レ
神^レ是^レ可^レ遣^レま^レと^レ八^レ重^レ言^レ代^レ主^レ神^レ是^レ可^レ白^レなり^レの^レ類^レの^レ是^レ字^レ漢^レ文^レ
乃^レ格^レに^レ似^レし^レる^レや^レも^レ然^レよ^レい^レる^レ古^レ語^レなり^レ許^レ礼^レや^レ訓^レ法^レし^レ
こ^レい^レま^レる^レ其^レ名^レを^レ顯^レし^レて^レ是^レ神^レ云^レく^レや^レり^レふ^レ同^レじ^レ也^レ
く^レい^レふ^レや^レき^レい^レ天^レ菩^レ比^レ神^レ云^レく^レ神^レあり^レ是^レ神^レ遣^レ法^レなり^レい^レは^レ多^レ
が^レ如^レし^レ漢^レ文^レ小^レ此^レ字^レ其^レ初^レの^レ如^レく^レ曾^レ能^レや^レ訓^レ法^レし^レ但^レし^レ此^レ字^レ
を^レ置^レ意^レや^レり^レ異^レなり^レ其^レ初^レの^レ如^レく^レ曾^レ能^レや^レ訓^レ法^レし^レ但^レし^レ此^レ字^レ
あり^レま^レり^レ繁^レく^レ置^レし^レる^レ中^レふ^レい^レ捨^レて^レ讀^レま^レる^レ第一^レあり^レ又^レ彼^レ字^レ
や^レ相^レ通^レは^レして^レ共^レに^レ曾^レ能^レや^レも^レ加^レ能^レや^レも^レ訓^レ法^レし^レ處^レあり^レ又^レ許^レ

能^レや^レ訓^レて^レ宜^レし^レき^レ處^レも^レあり^レま^レと^レ上^レ小^レ云^レは^レ物^レを^レ指^レて^レ曾^レ礼^レや^レ
い^レふ^レ此^レ字^レを^レ用^レひ^レし^レる^レ處^レあり^レ如^レ魚^レ鱗^レ所^レ造^レ之^レ宮^レ室^レ其^レ綿^レ津^レ
見^レ神^レ之^レ宮^レ者^レ也^レなり^レある^レ是^レあり^レ中^レ昔^レ凡^レ物^レ語^レ書^レふ^レ人^レ名^レを^レ
する^レる^レや^レ多^レし^レ同^レ格^レ相^レ阿^レ比^レや^レ訓^レ法^レき^レる^レや^レ常^レれ^レ如^レし^レ此^レ字^レの^レ
なり^レ古^レ語^レなる^レ法^レし^レ相^レ阿^レ比^レや^レ訓^レ法^レき^レる^レや^レ常^レれ^レ如^レし^レ此^レ字^レの^レ
や^レあり^レ中^レふ^レ捨^レて^レよ^レむ^レま^レる^レ第一^レあり^レる^レ法^レし^レ竟^レ表^レ波^レ理^レ互^レ又^レ
表^レ閉^レ互^レ又^レ波^レ互^レなり^レや^レ訓^レ法^レし^レ又^レ然^レ訓^レて^レい^レ煩^レり^レ第一^レ處^レも^レあ^レ
は^レ其^レに^レ捨^レて^レ讀^レま^レる^レ也^レなり^レ訖^レ竟^レ字^レや^レ全^レ同^レに^レ用^レひ^レし^レ
已^レ訓^レ法^レし^レる^レも^レ同^レに^レ至^レあり^レる^レ麻^レ傳^レや^レ訓^レ法^レし^レ伊^レ多^レ
流^レ麻^レ傳^レや^レ訓^レ法^レき^レ處^レに^レい^レ稀^レあり^レま^レと^レ八^レ拳^レ須^レ至^レ于^レ心^レ前^レに^レ
に^レ至^レ到^レなり^レい^レ意^レあり^レ其^レ故^レに^レ須^レ乃^レ心^レ前^レに^レ至^レる^レ也^レなり^レ伊^レ多^レ流^レの^レ
あり^レる^レま^レと^レ伊^レ多^レ流^レの^レ

須乃心前至ふなり。麻傳ハ然る終ふなり。然る
ハ是ハ常ゆゑ麻傳ヤリしよ。伊多流麻傳ヤリしよ
ハ異。到常のろ。伊多流ヤリ訓法きもあり。又由久伊傳麻須
ヤリ訓法よ處もあり。臨此字多くハ漢文の格にて用ひ
正其ハ常れ如く能叙牟ヤ訓了ハ古語ハ臨産時ヤ
あり。産時尔那理且懷妊臨産ヤあり。懷妊阿礼麻佐牟
登須あや。其語乃状よあ。ぐひして訓法し。各初ハ如く
淤能。ま。淤能母淤能母ヤ訓て可き處も有り。又語の
さ。ん。よ。り。て。阿比ヤも美那ヤも迦多美迹ヤも訓法よ處
あり。諸天神諸八百萬神諸御子等諸あやの如く下ハ
あは。こ。の。古語なり。毛。呂。の。訓法し。諸人諸國諸神あや

の如く上ハある類ハ古語なり。漢文あり。あ。は。し。諸
人ハ万葉にも毛呂比登ヤあれ。古言なり。諸國ヤハ漢
文ヤ見ゆ。書紀ヤハ。久。尔。具。尔。ヤ。訓。了。然。訓。法。し。諸。神。ハ
迦。微。多。知。ヤ。訓。法。し。又。久。尔。具。尔。の。例。ハ。迦。微。賀。微。ヤ。も。訓。法
し。毛。呂。加。微。ヤ。訓。ハ。兀。て。毛。呂。某。ヤ。ハ。云。法。き。ヤ。云。ま。し。記。ヤ
有。法。く。毛。呂。毛。呂。能。某。ヤ。ハ。何。あ。も。り。し。法。き。な。り。
於是許。尔。ヤ。訓。あり。今。俗。言。ハ。曾。許。傳。ヤ。リ。上。卷。ハ。在。于
此。處。ヤ。云。法。き。城。於。是。有。ヤ。書。る。處。あり。こ。ハ。法。て。乃。例。ハ
異。の。記。中。如。此。状。の。ろ。ヤ。往。く。あり。是以。許。表。母。且。ヤ。訓
あり。此。辞。ハ。本。よ。り。皇。國。言。ヤ。ハ。聞。え。る。其。初。漢。籍。を。讀。く

謀家利まゝ是東人波常尔云久云く止云天なやあり歌ふ
も万葉九よ吾妹児尔告而語久云く登言家礼婆十三ふ里
人之吾丹告樂云く登人曾告鶴十七ふ乎登賣良我伊米尔
都具良久云く等曾伊米尔都氣都流なや此外ふもや印お
あゝ見あてみな如是き例なり古語のみやうの中古文
もみな同ト古今集小親玉乃云くをく狩して天川原よ至
左日記よかぢやり乃云くやう黒き鳥乃ゆや白き波をよ
りや云く源氏物語玉葛巻よ此男やもを召取てかぢらふ
るやのやもさるやなりや同ト心よいきあひをか
つらふやうやかぢやうやありあやあはるや
訓添はき辞あり今文章をかむりも必此格を違ふまじ
置く辞を又終まじ然るを今世人此心よ首よ既
あゝ拙きぞや思ひく終るをば畧きてよ登言のみ訓

結むるなり其の中よ近世乃かぢあみよあのみかぢらふ
てびらるやあり漢籍も古き訓点乃本よい皆トイペリな
や訓附くをやあ登言のみ云やぢらるは古今集
ふ此哥に或人乃云く柿本人まろがやりや又なるのみ
やの御哥やりやさる一ニのみなり抑さるの哥乃左
注りて其下よ語なまればやや厭ぢらるもあぬを其
下ふや語乃ある処を登言の云く上も下もやう乃
ハぬ語やあるやうし是ハ凡て今世人のさあら心よ
誤る事ある故よさるを
とやあゝ委曲尔辨る云やあり

直毘靈

此篇の道やい
るや比論ひやあり

皇大御國ハ掛まゝも可畏き神御祖天照大御神乃御生坐
は大御國みして

萬國よ勝るる所由ハ先くおいらさるる國やい

ふ國よ此大御神乃大御徳かぐぬ國なりし。
大御神大御手は天の璽を捧持して。

御代御代お御志ししや傳ひり來りし三種の神寶は
是ぞ。

萬千秋の長秋よ吾御子れ志ろし終るる國なりやあやよ
賜りしまよし。

天津日嗣高御座乃天地の共働かぬるやの既くこ
よ定まめぬ。

天雲れむまはみぎわ谷蟻乃けりし等りみ皇御孫命
乃大御食國なりしまめて天下ふり阿しむる神もなぐま

初るわぬ人もなぐ。

いゝ萬代を経やも誰しれ奴う大皇お背き奉むあな
かあ御代御代乃間よふもくも不伏惡穢奴もあは
ば神代乃古事れまぬく大御稜威をかぐやうしてよ
ちまらふら減し給ふ物ぞ。

千萬御世れ御末の御代まて天皇命りし大御神の御子
やまし。

御世御世純天皇の治りし天照大御神の御子よな
も大坐まり故天の神乃御子やも日れ御子やまな
せり。

天^ア於^ニ神^{カミ}乃^ハ御^ミ心^{ココロ}を大^{オホ}御^ミ心^{ココロ}やして。

何^{ナニ}も所^{トコロ}も已^イ命^{ノミコト}の御^ミ心^{ココロ}もしてはりしはら賜^{タマフ}り給^{タマフ}て。神^{カミ}代^ト乃^ハ古^{フル}事^{コト}れまふ。ねあやひしはら治^シ久^ク賜^{タマフ}ひて疑^{ウタガハ}ひおもひの事^{コト}あるをり。御^ミ事^{コト}とて天^{ツク}神^ノの御^ミ心^{ココロ}を問^トして物^{モノ}給^{タマフ}ふ。

神^{カミ}代^トも今^{イマ}も可^{ヨク}ぶしてや。

天津^{アマツヒ}日^ヒ嗣^{ツギ}乃^ハ然^{シカ}ま。そののみや。臣^{オミ}連^{ムスヒ}八^{ヤソ}十^ソ伴^{トモ}緒^フよ。その家^{イヘ}これ職^{シゴト}業^ノ成^{ナリ}け。祖^{オヤ}神^ノとら異^{コト}あ。ら。只^タ一^{ヒト}世^ヨの如^ニくみして神^{カミ}代^ト乃^ハまふ。奉^{ツク}仕^セとら。

神^{カミ}あづ。安^{ヤス}國^{クニ}や。平^{タヒラ}も。所^{シロ}知^シ者^メも。大^{オホ}御^ミ國^{クニ}よ。あり。字^ジあ。

書^{ナニ}紀^ハ乃^ハ難^{ナニ}波^ハ長^{ナガ}柄^ハ朝^{アサ}廷^{タテ}御^ミ卷^{マキ}。惟^{カミ}神^ノ者^ハ謂^{イフ}隨^{カニ}神^ノ道^ノ亦^モ自^{オホ}有^ク。神^{カミ}道^ノ也^{ナリ}。思^{オモ}ひ給^{タマフ}し。神^{カミ}道^ノは隨^シふ。天^{アメ}下^ノ治^シ久^ク賜^{タマフ}ふ御^ミ事^{コト}。神^{カミ}代^トよ。有^リあ。物^{モノ}賜^{タマフ}ひ。神^{カミ}代^トのま。大^{オホ}の所^{シロ}知^シ者^メ。わの。神^{カミ}乃^ハ道^ノ。他^ホよ。現^{アキ}御^ミ神^ノ。大^{オホ}八^{ヤソ}洲^ソ國^{クニ}。其^{ソノ}御^ミ世^ヨ。天^{アメ}皇^ノの御^ミ。

政ヲサメやぐし神の御政ミツサメなる意あり。萬葉集に奇カミなる神
隨ナガラシカク云々あるも、同カミト云々カミ神國カミクニや韓人カラヒトの申せり
しカベ。諾カベも有アリむ。

古オホの大御世ミヨより道ミチやいふ言コト舉アゲむさふあり。

故コト古語フルコトふあはる水穂ミヅホの國カミの神カミやう言コト舉アゲせぬ
國カミやいり。

其ソノいづ物モノはゆく道ミチも有アリむ。

美知ミチやい此記コトは味御路ウミミチや書カキる如カドく山路野路ヤミチあやの
路チは御ミてふ言コトを添ソヘしめていづ物モノはゆく路チぞこ
をカキおきてい上代ウヘは道ミチやいふものいひし。

物のこゆるありあはるヨロツ萬の教オシもナニ何乃道
とふの道ミチやいふアタレク異國のさナニ。

異國アタレクニの天照大御神の御國ミコクニはナニ故ナニは定サダメま
は主キミなるして狭サバ蠅ハエあは神カミやうナニ得エてはナニあは
よあり。人心ココロあはるナニおはるナニみづあはるナニして國
をナニ取トリちぬば、賤シノし奴ヤシも、あはるナニ君キミやもあはるナニ。
上カミやある人ヒトの下シタある人ヒトは奪ウバりぬば、あはるナニ下シタなる
は上カミよりナニひナニなるかナニひてナニうナニはるナニはるナニありて、か
みは仇アタみナニ。古オホより國治クニササまありかナニも有アリむ。其
が中ナカふナニ威イキホヒ力チカラあり智チも深フカく人ヒトをナニ奪ウバり人の國クニを奪ウバ

も古の法律あるものをやましく易やがりの物をさす可
作こそいゆもあつたゆのむよりいひなして天地の理
をきはまむとらししあや思ふよるゆりて世人をわら
き治まむとらふのしづめの事ぞおもく天地のさゆを
まのしも次ぎて神の御所為としていゆもく妙も奇
しく靈も物もしあゆむさふ人のかぎある智
まもしての測るがとよわぎなるをいりてりよくま
矢部くして知るさゆのあつた然るは聖人乃いす
言をば何ぞやもし理の至極や信とあやみをさるあ
さゆの愚あれかしてその聖人かものささぎあひ

ひして後これ人かものささぎのさゆをこがさゆかも
てあはうりあゆのささぎ彼國乃とせなる大御國の
物學びせや人是をよく心得をりてゆえり人の説
まなまゆのささぎ次ぎて彼國の事毎ふあまのささ
りふ心を著てあやゆふ論いささる故よひはて
人の心ささぎだら悪くなめて中ふ事をささるさ
かおささぎの國の治まりがささるゆふあゆか
まゆふの聖人の道の國を治まむとらふ作もあま
まゆ國を乱れしゆゆもなる物ぞいさぎ何れも大
あゆふし事足ぬとゆいささるささるささる故

貴きをあらぬ癡人の志もよあらずや。

然るをやく降して書籍やいふ物渡参来て其を學びよむ
事始まりて後其國れてぶめ茂あしひてやく萬のう言よ
まど守用ひはく御代よなりてぞ大御國の古乃大御
まのをば取別て神道やいぢけらふしめあるそのかの
外國乃道くふまがぶがゆ急よ神やいひ又かの名を借
てあふも道やいひふなりあり。

神の道やいひも所由ハ下ふおぼくうみやう。

ちのありて御代くくを経るまふおしやまのくよその漢
國のまぶめ志くふま結ぶるや盛なりなりとてゆよお。

おひて天の下所知看ハ大御政もはく漢様よ為りて。

難波の長柄宮淡海の大津宮れやうよ至アて天の下
乃御制度もみな漢よなり集かくて後の古の御てお
まのしづ神事よけみ用ひ賜り故後代まぐて神事
ふのみハ皇國乃てまりのなや乃るよるるやおるよ
やう。

青人草れ心まぐてぞ其意よるむりふま。

天皇尊れ大御心を心やせびして己くがまあしらお
る後を心やいひるハ漢意の移しるなり。

まぐり安まぐ平けとて有来し御國のみづりがり集

さやしきもあつゝ異國ヤシクニもやゝ似ニたるあやも後ノのまじり
きよまされ

いかにあつゝき大御國の道をおよぼさる。他國トクニ乃ニと
かゝく言痛コナメき意行コノレシヤをよびたるやゝしてひまほほ
ほり直ナホく清キヨめり心ココロも行イひもみま穢キタメ悪アクくまぢり
ゆよて後ノのちいよりの他國トクニのまじり軍道イクサノミチあつて
の治チまりかゝるやが如ニくあはるるぞり。亦モ後のノのあめ
さほを見て聖人の道あつては國の治チまりかゝる
物ぞい思オモひあはるるい。治チまりかゝるなりぬるいと
聖人の道乃ニ蔽カシはるる存ゾの字ジをふりぬり。古コの大

御代ミコトノは其道ミチをわづらひていかに治チまりしと思オモはる。
そもく此コノ天地アメノツチ乃ニあひどよ有アリる事コトの悉コトク皆ケは神の御心
ぢり中ナカふ。

凡ソトて此コノ世ヨ中ナカれ事コトの春秋のゆよりりの雨アメふり風カゼふり
あつて又マタ國クニ乃ニる人ヒト乃ニる吉ヨキ凶アヒき萬事マンジみならや
あつて神の御所ミコトノ為ナリあめとて神カミの善ヨキもあり悪アクきも
有アリて所行シヨウもそよあつてはぐふあつて大オホく尋常ヨソツネのあ
つてあつては測ハかるがよまきあつて然シカるを世
人ヒトかゝるもあつてはあつて外國トクニの道ミチ
の説コト乃ニみ感カンひりて。此コノ意イをわづらひ皇國ミヤノクニの學問ガク

次る人あやしの古書を見て必知法よと休むるまじき
人やもたよむまじき知ざるのしりふぞや抑吉凶
き萬乃事成あざし國よて佛の道よの因果やし漢の
道よよの天命やいひて天乃たれまじき思ふれ
らみまひのるやありそが中よ佛道説の多く世の學
者乃よく辨可知るるやあれまじき今いつれ漢國乃天命
乃説のわたりまじき人もみま惑ひていままひがあやな
る存や成さやゆる人なるまじき今ろま論ひさや
や抑天命やいひてやの彼國よて古よ君を滅し國を
奪ひし聖人の己が罪を乃がわたりまじきあま出

託言やあまの天地の心ある物よあざれ
命ある法もあざれ天よ心あり理
もあめて善人よ國を興す治久しま可や
の周の代乃りてあま必又聖人の出ぬ法よま
もあざれあざれ周公孔子あて既よ
道の備る故よ其後の聖人を出さばやいりやも又
心得りの孔丘が後其道あまゆる世よ行りぬて國
よく治まめよあまもいり来其後よもいよ
る其道よいりて後言やあり國もまゆるまじき
あま物を今いつれあま聖人をり出さば國の厄

をもちてあまみびの初ひは秦始皇がてら荒ぶる人
と與アタ子ヒトクサ人草哉クレ苦クしとすといふや天乃ひびる
後ぞいひくしといふし始皇のや天乃あてり非
は故より久しといふもいひては狂マダシ法をいひて
も暫ヒラカくもいひたる悪人アレキヒトとありては理ありまや又
國をさる君乃さる守ふ天命のありては下なる諸人モロヒトの
守ふも善悪ヨキアレとありては見せし善人のひびる福サカえ悪
人の速スミヤく禍マガふ法は理なるをいひてはあはれはよき人
も凶アヒくあはれ人も吉ヨきぬが昔ムカシも今も多かるはい
ふふもいふや天乃志シとありてはまはるい

が法ありてはありては後世はありてはありては
人心さかきゆゑに國を奪ひて天命をいひては
世人乃諾ウケむいふは法は禪シらせて取るやもあり
をいふよのいぬあやといふやいひては古乃聖人セも
も實コトの是と異コトなりぬ物をや後世乃王の天命をいひ
ふや信ウケぬもの古人乃天命をいひては心得を
いひいひては古の天命ありては後よの
きりてはいひては或人舜ハ堯が國をさる禹も又
舜が國を奪ふありてはありてはさも有法ありては
ぞ後世の王莽曹操がさるいひてはるいを受ウケ

る城中ぶろれ世乃みづぬよ。此道よ背きて畏とも大
朝廷よ射向ひて。天皇尊をひやまし奉れあり。北條義
時泰時又足利尊氏ひやぶ。如きら。あやうし。あ。天照日
大御神の大御蔭をもねもひのかうさふ。穢悪き賊奴
やもひやもるふ。禍津日神れ心のあやしき物よ。世
人乃あひ奉従ひて。子孫の末まで。あひく榮え居し
るや。抑此世を御照し坐まの天津日神をぶ。必しあ
みみ奉る。法よるやな。あゆやも。天皇を必畏るみ奉る
法よ。神やを。あ。ぬ奴もよ。あゆもる。漢籍意よ
まやひて。彼國のみづぬあゆも。風俗をか。こきこやよ

ねもぬて。正しき皇國の道をあ。今世を照しま
し。天津日神即天照大御神よま。あゆ。あゆ。信
は。今れ天皇ひやら。天照大御神の御子よ坐まの
やを忘し。あゆ。

天津日嗣乃高御座り。

天皇の御統を日嗣や申ひ。日神の御心を御心やし
て。其御業を嗣坐。故ひや。又その御座を高御座や申
ひ。唯よ高き由のみよ。あ。日神の御座や。故
ひや。日よ。高照や。高日や。日高や。申ひ古語の
あ。越思。日神乃御座を。次よ受傳り坐て。其

御座オホ大坐トシまの天皇命ミコトノミコよませべの日神ヒトシよ等ヒトく坐スるや
決カタしかつねば天津日神ニギハヤヒ乃ナリわちみうぢくくミみ字ミ蒙カら
や者ヤの誰ナレしう天皇命ミコトノミコよの可カ畏レみ敬ヤび尊タラシみて奉仕ツカヘら
ざしや。

何ナニれおちのしとぞきりよか集ツクるふ動ウツく世ヨあきざら此道コノミチの
靈アヤシく奇クシく異國アタレクニの萬マンの道ミチよはがゆて正ただしく高タカき貴タラシは徴シルシあ
る。

漢國カンクニをゆく道ミチてゆくやの何ナニも道ミチのやうが故ユ。
もやよありみごめなるが世ヨくよまはしく乱ミきみごめ
終ツヒよの傍カタヘの國人カニよ國クニの神カミやぐらうばわれはてぬ其ソノ

の夷狄イテのしひて卑ヒ劣レく人のごやもねもすうごり
しものぢれやもしきぢれぢれくしてうばひ取ツられ
ばせすはなぢく天子テンシのしひく仰オラぎ居イ座ザぢるのしひ
といゆる何ナニとましきあめと備イあはぢやかしても儒ヌ
者サのぢやよき國クニやねもあつや王オウ乃ナリみあはぢおや
かタラシく貴タラシきりやした統スヂさぶまは周シュウのしひ一ヒト代トまで
の封建セツケン乃ナリ制セのしひく此コノ別ワケ何ナニのしひくぢれぢれ
それも王オウ乃ナリ統スヂりゆば下シタまがも共トモよわりのぢれば
まぢの別ワケぢし秦シよめらぢるのしひく此道コノミチては
みごめよして賤イナシき奴ヌ乃ナリ女メも君キミ乃ナリ寵メデのまよく忽タチニチちキ後キ

乃位^ニ位^ニたり。王^ノ女^ヲをも^シ。位^ニたり。男^ニあり。せ。耻^シ
ゆ^ルも^シ。又^キ昨日^ノ山^ノ賤^ニたりし者^モ。今日^ノ
ふ^ッ。國^ノ乃^ク政^ヲ。高^ニ官^ニ。も^シ。登^ル。凡^テ
貴^キ賤^キ品^ニ。鳥^ノ獸^ノ。も^シ。異^ニ。凡^テ
と^シ。あり。を^シ。

そ^レも^シ。此^ノ道^ノ。い^ッ。道^ヲ。尋^ハ。天^ノ地^ノの^オれ^ヲ。尋^ハ。
道^ノ。も^シ。あり。

是^ヲ。よ^ク。辨^別。て^シ。漢^ノ國^ノの^老。莊^ノ。あ^リ。見^ル。ひ^ト。也^シ
よ^ク。思^ヒ。ま^ス。

へ^ノ。作^ル。道^ノ。も^シ。あり。此^ノ道^ノ。も^シ。可^シ。畏^キ。高^ニ。御^ニ。産^ル。巢^ニ

日^ノ神^ノ乃^ク御^ニ。靈^ニ。よ^ク。あり。

世^ノ中^ノ。あ^リ。ゆ^ル。事^ト。物^ト。也^シ。皆^ク。悉^ク。此^ノ大^ノ神^ノの^み。も^シ。よ^ク
成^ル。あり。

神^ノ祖^ノ伊^ノ邪^ノ那^ノ岐^ノ大^ノ神^ノ伊^ノ邪^ノ那^ノ美^ノ大^ノ神^ノの^始。然^ル。も^シ。あり。

よ^ク。の^り。あ^リ。ゆ^ル。事^ト。物^ト。也^シ。此^ノ二^ノ柱^ノ大^ノ神^ノより^ハ。は^じ
ま^ス。あり。

天^ノ照^ノ大^ノ御^ノ神^ノの^受。も^シ。ひ^ト。も^シ。ち^ト。も^シ。ひ^ト。傳^フ。賜^フ。道^ヲ。也^シ。故^シ
是^ヲ。以^テ。神^ノの^道。の^申。也^シ。あり。

神^ノ道^ヲ。申^ス。名^ハ。書^ノ紀^ノ乃^ク石^ノ村^ノ池^ノ邊^ノ宮^ノに^テ御^ノ卷^ニ。始^メ。て^シ
見^ル。え^ル。其^ノの^只。神^ヲを^い。祭^ス。も^シ。あり。

ちきしして云はひり。さう難波長柄宮の御卷。惟神者
謂シタカヒモテ隨神道亦自有ルラ神道也。何れもさう皇國の道
を廣くしてしる。始りける。さう其由の上より引
てしる。が如く。其道やいひて。さうある。行ひ
れあまよ。あづま。あづま。神をいひて。祭をいひ
る。やま。いり。さう。いひも。て。ゆ。さ。一。さ。あ。あ。り。
然る。か。あ。み。聖人設ケテ神道やいひ言ある。我取て。
此方より名けし。あ。い。あ。い。の。神。の。さ。後。
らぬ。み。り。言。あ。其。故。い。ま。神。の。さ。もの。此。彼
の。始。よ。め。同。じ。あ。い。の。國。あ。い。い。は。ゆ。る。天。地

陰陽の不測く靈きをさうしていひあづま。さう空き理
乃み。さう。あ。い。其。物。あ。い。あ。い。さ。皇國の
神の。今。現。御宇天皇の皇祖よ坐て。さ。あ。の。空
き理。を。い。類。い。あ。い。さ。あ。の。漢籍ある。神道
の。不測く。あ。い。道。や。い。さ。皇國の。神道。の。皇
祖神の。始。賜。ひ。も。ち。賜。ふ。道。や。い。さ。其。意
い。い。異。な。る。あ。い。
さう其道の意の。此記をいひ。あ。い。の。古書やも。さ。い
味。ひ。み。い。今。も。い。あ。い。あ。い。世。れ。の。あ。い
あ。い。心。も。み。あ。禍津日神よ。さ。あ。い。あ。い。あ。い

せる強事トヒヒコトの如く、まゝの道よりなりぬ。故カレシキ口より人
みふるや、トヒヒコト言コトひの如く、まゝの道は然行ふ人の世シカオコナ
よの如く有ア、トヒヒコト天理のまゝなる道は思ふ人の如
くあり、又其道よりをせざる心を、人慾の如くしてよ
くせし、トヒヒコトろえぬ、トヒヒコトその人慾の如く物に、トヒヒコト欲
を、トヒヒコトいひ、トヒヒコト故より、トヒヒコトいひ、トヒヒコト然る法
き理より、トヒヒコト出来、トヒヒコト法を、トヒヒコト人慾も即天理な
らば、トヒヒコト又百世を経ても、同姓や、トヒヒコト婚ムコハヒは、トヒヒコトいひ、トヒヒコト
トヒヒコト制サメあり、トヒヒコトの國より、トヒヒコト上代より、トヒヒコト然るよの
如く、トヒヒコト周の代の如く、トヒヒコトあり、トヒヒコトかく、トヒヒコトいひ、トヒヒコト定サめ、トヒヒコト

故に國の俗シラハレ、トヒヒコト親オトコ子コ同ト母ハハ兄弟ケイテイあり、トヒヒコトの間に、トヒヒコト
みづからある事、トヒヒコトみ、トヒヒコト常ツネ多くて、トヒヒコト別ワケなく、トヒヒコト治チまり、トヒヒコトか、トヒヒコト
一故に、トヒヒコトいひ、トヒヒコト制サメのきび、トヒヒコト一、トヒヒコトか、トヒヒコトて、トヒヒコト國の耻チ
ひ、トヒヒコトを、トヒヒコトいひ、トヒヒコト何の上、トヒヒコトいひ、トヒヒコト法ソウの嚴キビシま、トヒヒコト犯オカひもの、トヒヒコト
多オホきが、トヒヒコトいひ、トヒヒコト其制サメの、トヒヒコト立タち、トヒヒコトいひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコト
の道は、トヒヒコトいひ、トヒヒコト人の情ココロより、トヒヒコトいひ、トヒヒコト故に、トヒヒコト
いひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコト後ノチ、トヒヒコトいひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコト
やく、トヒヒコト周の代乃、トヒヒコトいひ、トヒヒコト諸侯の、トヒヒコトいひ、トヒヒコト者も、トヒヒコト
を、トヒヒコト破ヤる、トヒヒコトいひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコトいひ、トヒヒコト
姉妹あり、トヒヒコトいひ、トヒヒコト例も、トヒヒコトいひ、トヒヒコト物も、トヒヒコト然るを、トヒヒコト儒者

やもの昔よりかく世人の守りあるをわらふる志を
ていひおぼゆるはむれみまをいひていひていひていひ
よいひ思ひ又皇國を志ひて賤しき者やいひてやもい
まば古兄弟まぐりひせしるや文しひ出て鳥獸のふ
はまひぞやそふを此方の物知人しるも是をば
こゝろのいひ御國のありぬるや思ひてかよあく
よしひまぎはひていひまぎはひていひ断り説るこ
やもやよいかの聖人乃さうしるをわらひに當然理
や思ひておぼゆるはむれみまをいひていひていひていひ
まもいひていひていひていひていひていひていひていひ

かよごやのありや抑皇國の古りごと同母兄弟をの
み嫌ひて異母の兄弟や御合坐しるやの天皇を始
次奉ておぼゆるよのちよよい今京まひめてのこ
なごまごもいひていひていひていひていひていひていひ
だつていひていひていひていひていひていひていひていひ
おめりもいひていひていひていひていひていひていひていひ
まもいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
さのばり守るむらて異母あるをいひ兄弟や云て婚
せぬるやいひていひていひていひていひていひていひていひ
犯さるる悪く先古の古乃定まひていひていひていひていひ

國の制を規^{サダ}めて論^ロも^シほ^シく^シや^アあ^ハら^ズ。

い^ハし^テ大御代より志^シも^シま^シて^シも^シ天皇の大御心を^シ心^シや^シて。

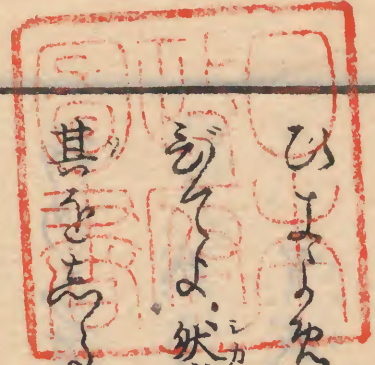
天皇の所思^{オモホシ}者御心のまよ^ク奉^{オウ}任^ニて^シ己^ニガ私^シ心の^シ心^シや^シて。

ひ^ハま^シる^マ大命^{オホミコト}を^シあ^ハら^ズみ^ナめ^シや^シひ^キま^シり^シひ^キく^シお^シか^ミみ^ナら^ズみ^ナ乃^シ御蔭^{ミカゲ}を^シあ^ハら^ズひ^キて^シお^シの^シも^シく^シ祖神^{オヤカミ}を^シ齋^{イツキ}祭^{ニツリ}お^シく。

天皇の大御皇祖神の御前^{ミマヘ}を^シ拜^{イツキ}祭^{ニツリ}坐^マが^シぞ^シや^シく^シ臣^{オミ}連^{ムラジヤ}八^ヤ十^ヤ伴^{トモ}緒^ヲ天下^{オホミタカ}に^シ百^{ヒャク}姓^{セイ}に^シ至^ツま^シて^シ各^{オノオノ}祖^{オヤ}神^{カミ}を^シ祭^マる^マの^シ常^{トコロトコ}お^シて^シ又^{マタ}天皇の朝廷^{ミカド}の^シま^シ天下^{オホミタカ}に^シ下^シり^シて^シ又^{マタ}天神^{アメノカミ}國^{クニ}神^{カミ}諸^{モロク}を

も祭^マ坐^マが^シ如^ニく^シ下^シり^シる^マ人^{ヒト}や^シも^シ事^{コト}お^シあ^ハら^ズて^シの^シ福^{サチ}を^シ求^{モト}め^シる^マ善^{ヨキ}神^{カミ}よ^シく^シい^ハら^ズ禍^ガを^シお^シか^ミり^シて^シ悪^{アク}神^{カミ}を^シも^シ和^ナ免^{ナシ}祭^マ又^{マタ}よ^シく^シ身^ミに^シ罪^{ツメ}穢^{ケガレ}も^シあ^ハら^ズば^シ被^{ハラヒ}清^{キヨ}む^シる^マな^シや^シみ^ナか^ミ人の情^{ココロ}よ^シく^シあ^ハら^ズす^シば^シ有^アら^ズま^シる^マが^シり^シ然^{シカ}る^マ成^ナ心^{ナシ}だ^シま^シる^マの^シ道^{ミチ}よ^シく^シあ^ハら^ズば^シ云^{イハ}は^シる^マは^シら^ズの^シ佛^{ブツ}の^シ教^{キョウ}を^シ儒^{ニョウ}に^シ見^ミよ^シる^マが^シる^マる^マの^シ道^{ミチ}も^シあ^ハら^ズ失^{ウシ}神^{カミ}の^シ道^{ミチ}よ^シく^シ甚^シく^シあ^ハら^ズり^シ又^{マタ}異^イ國^{クニ}よ^シの^シ神^{カミ}を^シ祭^マる^マも^シい^ハら^ズ理^{サキ}を^シ先^{サキ}よ^シく^シあ^ハら^ズり^シ議論^{ギョ}の^シり^シ淫^{イン}祀^シの^シ云^{イハ}は^シる^マは^シら^ズい^ハら^ズる^マ色^{イロ}あ^ハら^ズみ^ナら^ズる^マの^シ道^{ミチ}も^シあ^ハら^ズり^シ凡^{オノオノ}て^シ神^{カミ}の^シ佛^{ブツ}の^シい^ハら^ズる^マ物^{モノ}の^シ趣^{オモムキ}の^シ異^イな^シる^マ善^{ヨキ}神^{カミ}の^シみ^ナら^ズる^マは^シら^ズ悪^{アク}き^シも^シ有^アら^ズ。

か聖人の意れおのびくくやうよ了れ何事よりおの
事の神乃御心より出てその御所為なるるやをしも
あしひく大旨れ甚くくする物をも。



とてしひて求むあしむるべききわくまみごころ字被
ひよりたて清くく御國ごころもて古典やも字よく字
あしよ然せば受行法よ道あよこやのねのびくく知て
其をたごごひふら神の道をくけおるはよのありを
はかぬば如此まご論ふも道乃意よの何れも禍津
日神のみくもを見くく黙止をあしび神直毘神大直毘神
の御霊くげあてそのまごをもて直くくやをよ。

上の件次だて已ぐ私のころもていよあしびく
やぐよ古典よよ何やころあるるやをし何れはよく
見む人の疑はし。

かくりあり明和の八年やのあやしれがみな月九日の
日伊勢國飯高郡の御民平阿曾美宣長くくみかしくみ
もしく。

